特 274
36

第二十一號

興亞二週年記念講座講演集

財團法人 京都府國防協會

ヲ4D-43

始

特274
36

本編は昭和十四年七月十二、十三日植物園昭和會館に於ける本會主催興亞二週年記念講座の講演速記にして講師の校閲を經たるものなり

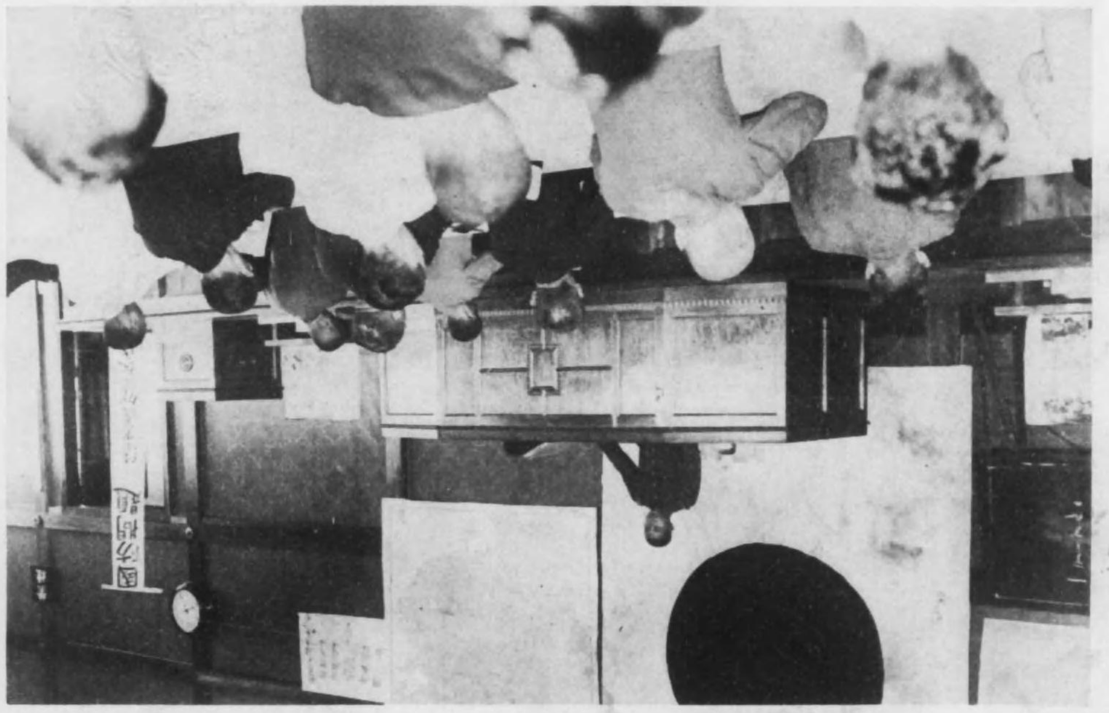
昭和十四年九月

財團法人 京都府國防協會

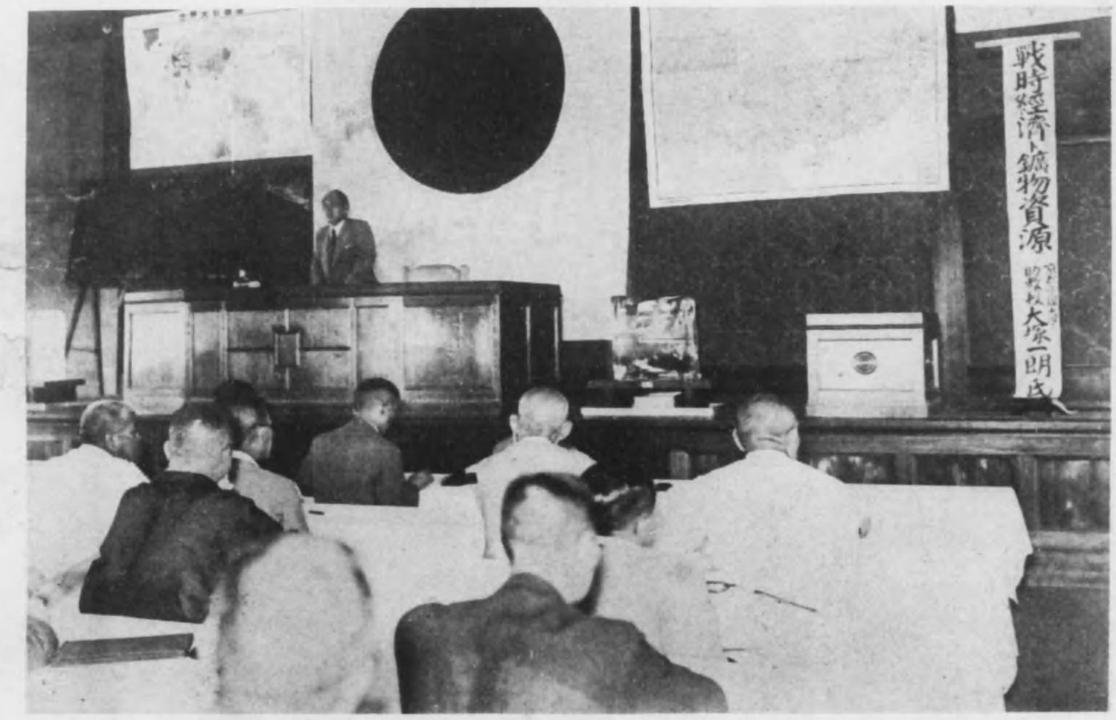
43

目次

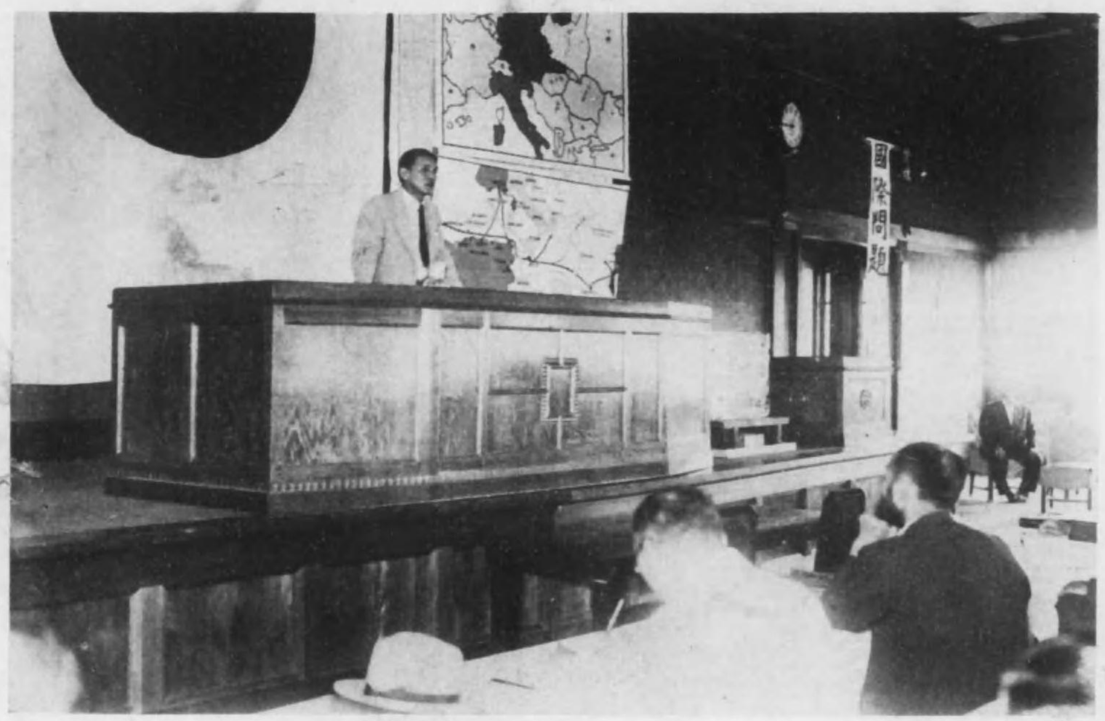
一、國防問題　歩兵少佐加藤長氏講演 …… 一頁
二、戰時經濟と鑛物資源　京都帝國大學助教授大塚一朗氏講演 …… 二七
三、現下の國際情勢　法學博士芦田均氏講演 …… 六一
四、都市の男兒の體力向上策　醫學博士戸田正三氏講演 …… 九五



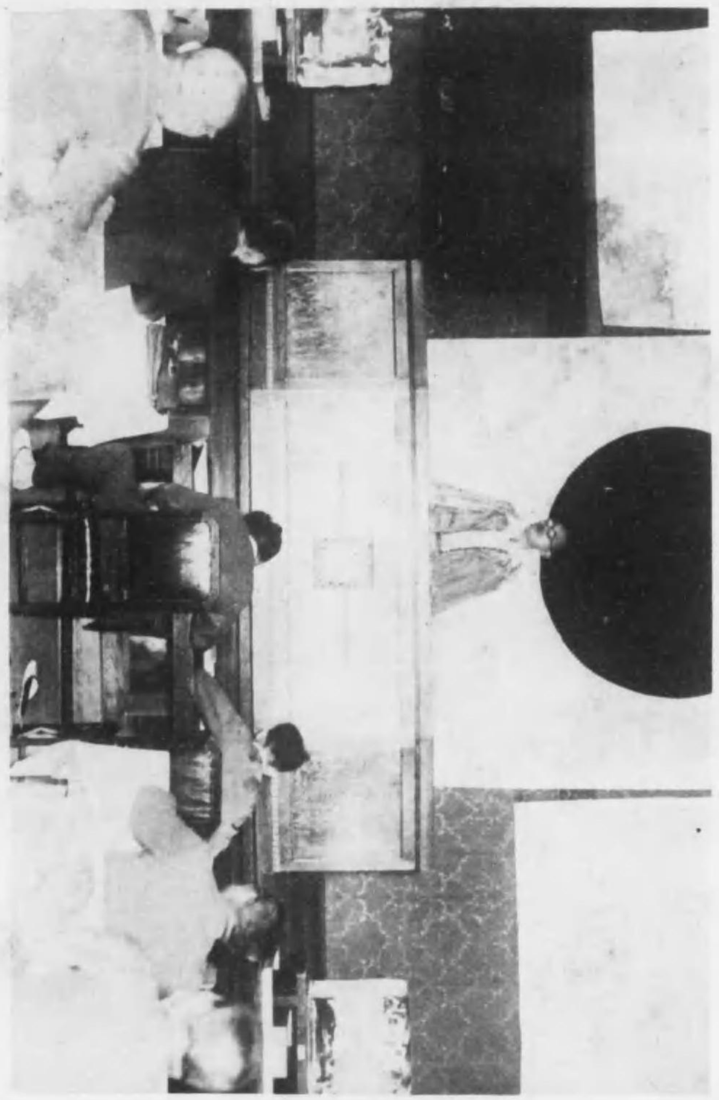
佐少藤加の中演講



講演中の大塚京大助教授



講演中の芦田博士



土博田戸の中演講

國防問題

陸軍省整備局課員兼情報部附參謀本部附
歩兵少佐　加藤　長

前言

本日は情報部長が差支がありましたので、代用品の私がお話し申上げることになりましたが、皆様の御期待に副ふやうなお話の出來ないのを非常に恐縮に存じて居ります。又皆様には非常にお氣の毒に思ひますが、暫くの間御靜聽を御願ひ致します。

支那事變が始まりまして滿二年になりますが、此間北、中、南支各方面に於きまして皇軍は赫々たる戰果を收め、その占領面積は既に帝國全土の約二倍半に達し、又抱擁人口は一億七千万に上つて居ります。敵に與へました損害は約二百三十万人に及び、大いに國威を中外に宣揚することが出來ましたのは、御稜威の然らしむる所固よりでありますが、第一線將兵の身命を忘れての奮鬪と、又銃後の皆様方の熱誠なる御協力、御支援の賜でありまして、此點厚く感謝致す次第であります。

極東に於ける列國の情勢

今や支那に於ける軍事上、政治上、經濟上、重要な大都市及び港々は悉く我が手に歸して居りまし

政權は全く一地方政權に顚落しましたが、さりとて抗戰を中止もせず、又崩潰もせず、「眞の戰はこれからである」とこちらと同じやうなことを言つて居るのであります。即ち蔣政權は武漢喪失を對日消耗戰略の第一段階として居るのであります。さうして之を抗戰第一期と稱して居ります。第二期を反抗準備時期即ち日本に對して反擊を加へる爲の準備時期とし、第三期を攻勢轉換期と豪語して居るのであります。之に依りますと、昨年十二月以後一年乃至一年半の期間。即ち現在が反抗準備期でありまして、此間に軍備の再建、經濟の復興等を全能力を發揮してやつて居るのであります。然らば支那事變は一體どんな風な具合に發展するか、何時終熄するかと云ふ問題でありますが、これは全く支那の出方一つでありまして、支那に、即ち蔣介石に聞いて見なければ分らんのでありますが、然らば蔣介石に、何時一體日本に屈服するのかと聞いて見ましても、蔣介石自身も一切分らんであらうと思ひます、きつとそれは「ソ聯と英國に聞いて呉れ」と云ふだらうと思ひます。即ち吾々は蔣介石を通じて英ソと戰爭して居るのであります。

これは最早御說明の必要はありませんが、話の順序として簡單に申して見ますと、ソ聯が援蔣を繼續して居ります所以のものは、日支兩國を極度に疲弊せしめ、それに依つて、支那に對しては赤化の溫床を釀成させ、又我が國に對しては早晩避くべからざる運命にありますところの日ソ開戰に備へる爲に、帝國の國力を消耗させ、乘ずべき有利な機會を狙つて居るのであります。これは色々の事象に照して明瞭なことであります。右のやうにソ聯の援蔣の根源は非常に深いものがあるのであります。

そこで武漢が陷落しました現在に於ても援蔣の手を緩めないばかりでなく、今後益々執拗且つ積極的なる援助を繼續することは、殆ど確定的と見ていゝのであります。

英國にありましては實利的には四十數億と稱されて居るところの巨大なる對支權益の擁護に焦慮するのは勿論でありますが、之を政略的に觀ますと、我が日本の大陸政策の成功は、香港、シンガポール等に對する直接の重壓となりますし、延いては濠洲、印度等への脅威となりますので、どうしても日本の大陸進出を阻止しなければならない、斯樣に英國は判斷して居るのであります。斯樣に援蔣政策の由つて來る所は非常に深いのでありますから、今後も此政策を急に變へると云ふことは絕對にあり得ないと思ふのであります。

以上のやうに、ソ聯及び英國の援蔣は本質上蔣政權が地方政權に顚落しました今後に於きましても終熄せぬばかりでなく、今後蔣介石の勢力がウントト弱つて來れば、尙之をなんとか援助して生かさうとするに違ひないのであります。此間ソ聯は鋭意軍備の充實とか產業の振興とか國內肅正を急ぎ、其の準備成つた曉には、所謂蔣政權の攻勢轉換と手を繋いでやつて來る、斯う云ふことが考へられるのであります。

即ち事變は此處まで參りましたが、今後決して樂觀は許されないのでありまして、英ソの勢力を支那から一掃するにあらざれば新東亞建設の大事業は到底完成出來ないのであります、即ち事變終局の目的を達成致します爲には、今後更に一段の努力を要するのでありまして、只今學務部長から話され

ましたやうに、眞の戰爭は是から始まるのであります。

又世界の大勢を觀察致しますのに、歐洲各國の利害は相反し、相錯綜して居りまして、之が解決の爲に必死の外交戰を演じて居りますが、結局は力の背景が勝敗の鍵を爲して居るのでありまして、各國共盛に軍備の充實、生產力の擴充等國家總力戰準備の完成に邁進中でありまして、恰かも世界大戰直前の光景に彷彿たるものがあります。而して列强の總力戰準備は何れも一九四一、二年頃、卽ち二三年後に完成致します豫定でありまして、此時分が世界的の危機であると言はれて居るのであります。現在世界は非常に狹ばまつて居りますので、歐洲の一角に動亂が起りますと、必ずそれが全世界に波及して來るのであります。そこで我が國としましても、此世界的危機に臨みました場合に、立遲れのないやうに、今から其準備を整へて置く必要があるのであります。新東亞建設の事業を完成致します爲には、此東亞だけでなく、廣く世界の大勢を洞察して、あらゆる狀況に應じ得るやうに態勢を逐次整へる必要があるのであります。歐洲の詳しい情勢は豫定表を見ますと明日芦田博士からお話があるやうでありますから、私は略して置きます。

支那事變の解決方策

次に支那事變解決の方策でありますが、以上のやうに支那事變は極めて複雜で、之が解決は容易ならざる大事業でありますので、之を帝國に有利に解決し得なかつた場合には、帝國の大陸發展は不可能になりまして、帝國は一等國の列から落伍するやうな狀況になるものと思はれます。支那事變の解

決方策としましては、色々考へられるのでありますが、今日の狀態に於きましては、直接蔣政權に對する武力的壓迫を繼續すると共に、其占據地域を着々復興して、其處に日本の勢力を確立し、英ソを牽して支那に於ける權益及企圖を放棄させるか、又は少なくとも我が大陸政策に協力するやうに仕向けることが緊急と思ひます。其意味に於きまして、第一線では御承知のやうに各方面とも依然攻擊を續行して居るのであります。

蔣政權に對する武力的壓迫を緩めないと申しましたが、然らば其對象でありますところの支那軍の狀況はどうであるか、之を簡單に申して見ますと、開戰當初約二百万と言はれて居りました敵は屢々補充とか改編とか新設を行ひましたのにも拘らず、非常に大きな損害を受けましたので、昨年武漢攻略直後には、半減して約九十万となつて居つたのであります。又裝備の如きも、小銃は三分の一、機關銃は二分の一、砲は三分の一に減少して居りまして、之を綜合して見ますと、戰力は開戰初頭の四分の一以下に低下して居つたのであります。ところが抗戰第二期に於きまして鋭意再建に努力しました結果現在では總兵力約百五十万となつて居ります。飛行機は事變當初八百機と言はれて居つたのでありますが、爾後援蔣諸國、特に英國とかソ聯から大量補充を受けましたにも拘らず、我が陸海航空隊の連續不斷の進攻に依つて潰滅させられまして、現在は機數は僅か二百機內外となり、第一線附近の重要作戰根據地を放棄しまして、現在では蘭州とか成都とか、昆明とか、斯う云ふ奥地に於て纔かに餘喘を保つて居る狀態であります。

併し以上のやうに、兵力は非常に減少し、裝備は低下して居りますが、依然として抵抗を續けて居るばかりでなく、匪賊化せる敵は到る處で我が後方を攪亂して居りますので、之が討伐には非常な努力を要するのであります。最初に我が占據地域は帝國全土の二倍半と、景氣のいゝことを申しましたが此地域が全部平定されて、日本内地の如く、又滿洲の如く治安が保たれて居るかと申しますと、決してさうではなくて、大都市とか重要な交通線に沿ふ地域は治安が良好に保たれて居りますが、一歩奥地に踏込みますと、決して天下泰平でなくて、匪賊が出沒し、此方の希望して居ります資源の開發とか物資の蒐集とか、之等を非常に妨害して居るのであります。故に今後に於きましては、武漢攻略戰とか徐州會戰とか、あんな大きな會戰は或は少くなるかも知れませんが、小さい戰鬪は全支到る處にひつきりなしに展開されるのであります。斯う云ふ戰鬪を連續しながら後ろでは著々復興して行かねばならない、之が即ち今後當分の間に於ける支那事變の實相であらうと思ふのであります。之が爲に現在支那に出て居りますところの軍隊は之を早急に内地に引揚げると云ふことは殆ど望み得ないのであります。

將來の軍備

次は之に關聯しまして、將來の軍備に付て一言申述べますと支那は今申しましたやうな狀況でありますが、眼を北方に轉じて見ますと、先刻申しましたやうに、ソ聯は對日開戰の好機を構成する爲に、支那に於て蔣政權を援助して、間接に日本と戰鬪をして居りますと共に、其對日消耗戰奏効の曉に於

きまして、主力を以て滿洲に進出しやうとして著々その準備を進めて居るのであります。最近に於ける極東の對日戰備强化の狀況を申述べて見ますと次のやうであります。

從來動もすれば中央の意圖外に出たり、或は中央の統制に服しない態度を執つて居りました極東方面軍司令官ブリュッヘル元帥を追ふて極東軍を中央の直轄としましたことは御承知の通りであります。餘り具體的な詳しいことは申されませんが、此極東方面軍は大きく別けますと、沿海州附近、ハバロフスク附近、ザバイカル附近に分れて居りますが、其外に黑龍江下流地區、北樺太、浦鹽半島以東の沿岸等に有力な部隊を配置して、滿洲侵入に容易なやうに戰略展開を終つて居るのであります。其飛行機も最新型の遠距離爆擊機を以て改編しまして、内鮮滿各要地の空襲を實施し得る態勢になつて居るのであります。さうして其總兵力は、兵員約四十万、飛行機千八百機、戰車千七百台を算して居ります。

そこで若し我が帝國にして實力が低下したと彼が判斷しましたときに、一擧滿洲に進擊して來ないと誰が保證することが出來ませう。若し準備を怠つて居りますと第二、第三の張鼓峰事件、第二、第三のノモンハン事件の起り得ることは明瞭なのであります。幸にして昨年の張鼓峰及今回のノモンハンに於きましては皇軍が壓倒的勝利を獲得しましたので、他の方面に於きましては事無きを得たのでありますが、あれが反對に日本が局部的にでも敗れて居つたとしますと、一體如何なる結果を生じたでありませうか、これは御想像にお委せ致します。

ノモンハン事件で、皇軍が大勝を博しましたので、國民中、ソ軍恐るゝに足らずと斯く思つてソ聯を輕視して居る者がありますが、これは注意を要することであります。私共もあの兩事件に依つて、ソ軍は思つたより脆いと言ふことを感じ、又向ふの戰法を見破りまして、將來の作戰上誠にいゝ資料を得ましたことは、非常に心強く思つて居るのでありまして、決して怖れては居らないのでありますが、侮つては居りません。又侮つてはいけないのであります。ソ軍を侮つて準備を忘りましたならば取返しの付かぬやうなことが起らないとも限らないのであります。

以上の情勢に基きまして、帝國は支那事變を遂行すると共に、之に關聯して大陸經營を完全に遂行し得るに必要なる軍備を持つことが緊要であります。即ち今後或る程度の軍備の充實と云ふことが必要になつて參るのでありまして、現に著々實現中であります。そこで今後當分の間今年と同等若くは以上の軍費とか軍需物資が必要になるであらうと思ふのでありますが、これは全部國民が負擔しなければならないものであります。さうして其充實しました軍備の重點は之を大陸に移して、國內には必要の最少限度になるであらうと思ふのであります。

又兵力が增加します結果、壯丁は特殊の者以外は全部徵集され、茲に名實共に國民皆兵の實が擧がるやうになるのであります。故に青年諸君はその任務の重大なることを自覺して一段と緊張して將來心身の鍛練に精進することが必要であります。それと同時に數が問題になつて來るのであります。これ位の支那事變を遂行中であります今日でも人の不足を告げて居るのでありますが、之が本當の國家

總力戰になりました場合には非常な不足を告げるのであります。昨年は昭和十二年より子供の出產が〇〇万人減つて居りますが、去年生れた子供は支那事變の影響が比較的少かつた時代の子供でありますのに〇〇万人も少かつた、さうすると今年以後はずつと減ることが豫想されるのでありますが斯うなるとこれは大きな問題になるのであります。生產力の擴充をやります爲にも、滿洲支那に勢力を確立する爲にも、一番必要なものは人でありますが、その人の出產率が少くなるやうなことがあつては大きな問題であります。そこで質の向上と共に、數の增加を計ると云ふ必要が起つて來るのであります。

世上往々にして軍備充實の目的は自主的に戰爭を仕掛ける爲であると斯う思つて居る人がありますが、これは大なる誤りであります。しつかりした軍備を持つて居りますと戰爭せずに目的の達成が出來ることは、最近の歐洲の狀況が之をよく證明して居るのであります。即ち最近ドイツがオーストリヤ及びチエツコスロバキヤを、又イタリーがアルバニヤを一滴の血も流さずに併合して、國防上極めて有利な態勢を確立することが出來ましたのに對して、英佛は地團駄踏んで口惜しがりましたが、遂に之を抑へることが出來なかつたその最も大きな原因は軍備の相違にあつたのであります。

即ち獨伊が苦しい中を我慢して軍備を充實して居りましたのに反して、英佛は軍備を怠つて居りました爲に、獨伊と英佛の間に大きな懸隔が生じて居たのでありまして、之を數字で申して見ますと、地上兵力は豫備軍を合して獨伊の約九百万に對して、英佛は七百三十万、飛行機は獨伊の一万二千五

百機に對して英佛の七千七百機、斯う云ふ具合に數に於て非常に劣つて居るばかりでなく質に於ても非常に劣つて居りまして、到底敵し得なかつたのであります。唯海軍は英佛が非常に優勢でありまして、獨伊の約百二十万噸に對して英佛は二百八十万噸、二倍以上持つて居りますが、英佛の主要海軍根據地は獨伊の制空下に在るのであります。獨伊の制空下に在るばかりでなく、世界の全地域に分散して居りますので、優勢を發揮することが出來なかつたのであります。

今や世界到る處武力を用ひざる戰爭が行はれて居ります。武力を用ひざる戰爭に於きましては經濟戰とか外交戰とか思想戰が勝敗の決を與へることになる譯でありますが、是等の推進力となりますものは、その背後の武力にあるのであります。唯軍備が必要であると云つて軍備だけ增したらいゝかと云ふと決してさうではない、國力と睨み合せる必要があるのであります。現在吾々は其意味から軍備の充實を唱へてやつて居るのでありますが、國力との調整はよく保たれて居るのであります。それは御承知の通り物が無いと軍備は出來ないので、物の調整は毎年の物資動員計畫で調整を保つて居るのであります。

經濟統制

次は軍備充實に伴ふ二三の經濟問題でありますが、昭和十四年度の物資動員計畫は御承知のやうに閣議の決定を經まして現に實行中でありますが、今年の軍需の量は昨年より減つてないばかりでなく、重要物資は昨年よりも增加して居るのであります。世人中支那に於ける大作戰は一應終つたのに

軍需が殖えるとはどう云ふ理由か、今年以後は軍の需要はウンと減じてそれを民需に廻して、統制も緩めたらどうか、と斯う云ふ人がありますが、之に付て依然大なる軍需の必要な所以を申上げて見ますと次のやうであります。

即ち先刻から申して居りますやうに、大陸政策を遂行致します爲に軍備の量を殖やす必要があるのであります。即ち、事變前は十七個師團でありましたが、平時の十七個師團では新たに生じた支那の事態に應ずる爲に到底兵力が足らないので間口を殖やす必要があります。それから現に支那で戰鬪を繼續して居りますのでそれに對する軍需品の補給が必要であります。其次は日本軍の裝備がまだ非常に惡い、此裝備をよくすることが急務であります。即ち機關銃とか大砲とかの數を殖やすことが必要であります。其次は將來の爲の最少限の準備が必要になつて來るのであります。假に日ソ戰が起るとしますとそれに必要な軍需品は持つて居ないと戰が出來ないのであります。最少限の備へはどうしても持つて居らなければ心配なのであります。

ところが將來戰に於きましては非常に軍需品の量が殖えるのであります。これは日本の現在の例を申す譯には行きませんが、一例を過去の戰役に取つて申しますと、日露戰爭時代には二年間戰をしましたのに日本軍の費した大砲の彈丸は約百万發であります。ところが歐洲大戰では、フランス軍が三億四千万發使つて居ります。ドイツが五億八千万發、英國は三億發、使つて居るのであります。勿論歐洲大戰は戰爭の期間が長かつたのでありますが、斯う云ふやうに澤山の彈丸が現代戰には要るのであ

之を一會戰に取つて見ますと、奉天會戰、これは日露戰爭の一番大きな會戰で十三日間續いて居りますが、其間に日本軍の擊ちました彈丸が三十三万五千發、歐洲大戰でマルヌの會戰と申しますと、歐洲大戰が始まつて、獨佛の國境でドイツの主力とフランスの主力が戰つて、フランス軍がマルヌ河畔まで退却したのでありますが、其マルヌ河畔に於ける獨佛軍の會戰に於きまして、フランス軍は七日間に百二十万發それからシャンパーニュの會戰、これは十七日間に七百五十万發、斯う云ふ風に日露戰爭に比して歐洲大戰では非常に澤山の彈丸を擊つやうになつて居ります。それから二十年を經過した今日及び今後に於きましては益々彈丸は餘計要るやうになつたことは茲に申上げる迄もありません。

それで其澤山要る彈丸を戰が始まつてから造りかけたのでは間に合はないのであります。御承知のやうに、軍需品は軍の工場だけでは出來ないので、民間の工場を動員して、其處で多くのものを造るのでありますが、戰になつて民間工場を軍需品を造るやうに仕向けて、さうして本當に大量の軍需品が出來るやうになるまでには相當長い月日を要するのであります。そこで或る程度の平時からの準備が必要になつて來るのであります。

以上のやうに色々目的がありますので、支那に於ける大きな會戰が一段落ついたからと云つて、直ぐ其軍備を減らし、統制を緩めて、事變前のやうな自由享樂の時代に戻せるかと云ふと決してさうは

行かないのであります。寧ろ本格的な統制は是から先に起つて來るのであります。今申しましたやうに、軍の需要が依然として大きいばかりでなく、其外に生產力の擴充とか圓ブロックの開發とか色々大きな事業を控へて居りますので、物の需要は益々殖えて來るのであります。そこで純粹の民需方面に對する物資の配給は茲暫くは十分な額を期待し得ないのでありますが、是は併し一方に未曾有の大規模の戰爭を遂行しながら、他方將來の飛躍に備へる爲に、生產力の擴充とか圓ブロックの開發とかさう云ふ積極的な政策を遂行して居ります。日本としては已むを得ない次第であります。

物資統制の結果、多少の不便はあるやうでありますが、幸ひにして吾々は食ふことには困らない、これ程幸福なことはないのであります。飯を腹一杯食ふことが出來ますと、外の物の統制とか他の方面の不便は之を忍ぶのにさう苦勞はないのであります。戰をします爲にはこれ位のことは當然であります。まして、歐洲大戰に於けるドイツの例を見ましても、日本の現在とは比較にならぬほど困つて統制を强化して居るのであります。即ち歐洲大戰のドイツに於きましては、開戰と同時に陸軍省に原料課を設けて軍で物の統制をしつかりやつて居るのであります。其詳しいことは時間もありませんし、又他の方から申されるかも知れませんので略しますが、軍需品は今申しましたやうに、陸軍省で强度の統制を致しましたし、食料品はこれは陸軍省でやつた譯ではありませんが、ドイツは平時一割以上の食の輸入をして居つたのでありますから之を補ふ爲にパンに十乃至二十%の馬鈴薯を混ぜたり、又小麥を取らないで全部粉にしてパンを作つて居ります。それからあの好きなビールの製造を六十

%に制限して麥の節約を圖つて居ります。そればかりではなくて、食券を發行し、食券に依つて最少限の配給を受けて居つたのであります。其上に日々の配給が少くなつたばかりでなく、肉無し日を定めて、其日には一切肉を食はんと云ふやうに、大いに食ふことに心配して居つたのであります。之が爲にドイツでは食糧を得る爲に大きな軍隊を動かして戰をして居ります。さう云ふのに較べますと吾々は非常に幸福と思はなければならないのであります。

併し苦しいことは確かに苦しいのでありますから、幾分でも物の配給を多くして國民の苦痛を少くしなければならんと云ふことに關しては大いに努力して居るのでありますが、物を最も多く消費します陸軍としても色々節約とか、代用品の使用と云ふことをやつて居るのであります、其最も卑近なもの二三を申上げて見ますと、被服方面に於きましては、軍服は全部ラシヤ服を止めて混紡を用ひて居ります、現在作つて居ります物は羊毛の新しいのは三割で、あとは綿とかス●フ、斯う云ふもので作つて居るのであります。毛布は全部綿で作つて居ります。兵營内で履く靴の代りに下駄を使つて居ります。兵營内で履く上沓、これは草履を而も兵隊が作つて履いて居るのであります。防暑帽は一般の人はパナマか何かで作つたものを使つて居りますが、兵隊のは竹で作つて、それを冠つて居ります。

其外色々ありますが略しまして食料に就て申しますと、食料は心配ないと申しましたが、牛肉とか罐詰を節約する爲に、牛肉の代りに魚の肉を使つて居ります。それから兎の肉も使つて居ります。こ

れは國産であります。それから罐詰の代用としまして戰線の兵隊には乾物を送つて居ります。罐詰も若干送つて居りますが、それは輸出用の上等品でなくて次等品を送つて居るのであります。其外兵器なんかの部分品では非常に各種の代用品を使つて居るのでありますが、さう云ふ風にして物資の需要を少くしようと云ふことに大いに努力して居るのであります。

國民の覺悟

次は國家總力戰の戰士としての覺悟でありますが、現代の戰爭は國家總力戰である、即ち武力戰の外に、經濟戰、外交戰、思想戰、斯う云ふものが併行して起りまして、斯う云ふ各種の戰に勝たなければ勝利は得られないのであります。彼の歐洲大戰に於きまして、ドイツは武力戰では到る處赫々たる勝利を博して居るのでありますが、それにも拘らず最後に戰に負けましたのは、經濟戰、思想戰、外交戰に敗れたからであります。武力戰は吾々が直接擔當してやつて居りますので、其外の經濟戰、思想戰、斯う云ふものは大いに皆さん方の手で皆さん方が一般國民大衆を指導してやつて頂かなければならんのであります。

先程物資が需要に比して少いから統制が強化されると申しましたが、少いと言つても絶對數が非常に少いと云ふ意味ではないのであります。唯軍需品とか生産力擴充とか圏ブロックの開發、とか斯う云ふ大きな事業を同時にやらうとするから苦しいのでありまして、單に一つだけであればそんなに苦しいことはないのであります。併し生産力の擴充と圏ブロックの開發は逐次進んで居りますので、やがて物

資の供給も多くなる時期が近く來ることは明瞭でありまして、前途は光明に輝いて居るのであります。

生産力擴充に付ては議會でも發表になりましたので御承知のことゝ思ひますが、圓ブロックからの物資の取得に付て申して見ますと、昨年よりも今年は企畫院で計畫しました重要物資だけでも二倍以上物が來るやうな計畫になつて居るのであります。戰時經濟に關しましては次にお話がありますし、又私は全く門外漢でありますから略しますが、さう云ふ風に眼に見えて日本の經濟力は進んで居るのであります。それで決して需要に比して供給が少いからと云つて悲觀することはないと思ふのであります。

どうか此事變の終局の目的解決の爲に軍備充實の眞に必要であり、又軍需物資の必要であること、よく認識して頂きまして、銃後の皆さんと致しましては、經濟戰の戰士として一般の人々を御指導になりまして、吾々が安心して直接の國防に邁進し得るやう御支援、御協力を、より以上お願ひ致したいのであります。第一線に行けないから國家に盡すことが出來ないと云ふやうなことは絶對ないのであります。第一線に於て働くのも銃後に於て働くのも、國に盡す意味では同じであります。唯年の若い者が第一線に立つて働くと云ふだけでありまして、國家總力戰の戰士としての任務に輕重はないのであります。所謂國民皆兵として、戰線に居らうが、銃後に居らうが同じ氣分でなければ戰には勝てないのであります。その意味でどうか一般の人々を御指導になりまして、此意義ある興亞記念日の催しを益々光輝あらしめられんことをお願ひ致したいのであります。

甚だ拙いお話をしまして暑い折御退屈でありましたが、之を以て終りと致します。（終）

戰時經濟と鑛物資源

京都帝國大學助教授
大塚一朗

天壤無窮なる我が皇國生命の發展過程に於て、永久に忘れることの出來ない昭和十二年七月七日の日を記念する此の週間に當りまして、京都府の國防協會が主催せられた此講演會に、何かそれに關係した事柄に就て申述べるやうにと云ふ御依頼を受けましたので、それに關する若干のことを申上げて見たいと思ひまして、茲に掲げてあるやうな戰時經濟と鑛物資源と云ふ題をお屆けして置いたのであります。

併ながら、目下の我が時局の中に於て、現に我が國が利用し得る鑛物資源のことをお話しやうと云ふのが、私の話の本筋ではないのであります。一般に鑛物資源なるものが、現代の戰爭若くは現代の戰時經濟に於て、如何なる意義を有するかと云ふことに付ての一般的な關係に就て、多少のことを申上げて見やうと思ふのであります、ただそれが延ひて我が國の今日に於て、如何に鑛物資源が重大であるか、或は滿洲及支那、殊に北支が我が國との協力的經濟關係に於て各その一環になると云ふことが、鑛物資源の利用と云ふ方面から見ても、東亞新秩序の形成上に如何に重大な意味を持つかといふ

は、盡びに又東亞を一體として、全面的にこれが物質的基礎を鞏固にし、延ひては皇國永遠の生命發展を窒ぢ以て八紘一宇の理想的世界新秩序の基本を建設すると云ふ上に鑛物資源と云ふものが如何に重要な意味を持つかと云ふことに就て、今日の我が國民の心得置くべき問題を繞つて、何程かの御參考にでもなるならば洵に本懷であると思つて居ります。

一體此の人間の生活に於て、何時の世でも物質的要素の必要なることは申す迄もありませぬ。殊にこの物質的資材の中でも鑛物的性質を有つた財貨乃至資材と云ふものが、今日に殊に極めて重要な意味を有つて來て居ると云ふこと、それが現代文明の一つの特質であると云ふことも出來る譯であります。今日、平時の生活に於きましても、吾々の生活を支へて居る所の物資の大部分が、素材的には殆んど凡て所謂鑛物的性質を有つて居ると云ふことは吾々は、各人自分の生活の周邊を見渡して、容易に氣付くことなのでありますけれども、殊に現代文明に於て其の鑛物性資材が人間世界の運命に就て重大な意味を有つて居ると云ふことは、戰時經濟の場合に一層顯著に認識され得ることであります。勿論人間世界の運命といふものは個人にしても國にしても又人類にしても、必ずしもただ物質的資材のみに依つて全面的にそれが決定されるものでなく若しこの事を忘れ又は否定しまして、專ら物資の方面だけを重視するといふことになりますならば、それは物質一元の世界觀に墮する譯でありまして、常に御互に深く此の點に警戒し反省して行かねばならぬのは申すまでもありません。又たとへ、物質資材が重要な意味を有つにしましても、必ずしも鑛物性資材だけが重要なものではないのであります。

即ち人間の生命を支へる所の最も直接な要素になる食物、更に又衣料類、その殆ど大部分は植物性乃至動物性資材であります。そして、此の種の資材、就中食糧の重要性は申すまでもないのでありまして、我々今日これについてはかの獨逸の敗戰が資材方面から見るかぎり殆んど專ら銃後の食糧缺乏に歸せられるといふ事實を想起しなければなりません。けれども、だからと云うて人間の生活に物質的資材と云ふものが、重要な意味を有つと云ふこと、竝に今日の時代に於ては其の物質的資材の中でも鑛物性資材と云ふものが特に重大な意味を有つと云ふことは、何人も否定し得ざる重大な事實であります。

一昨日から昨日にかけまして所謂汪兆銘氏の聲明なるものが世上に發表せられるに至り、時局が茲に一大轉換期に入るかの如き感を一般に與へて居ります。果して一大轉換期に入るかどうかは別問題に致しまして、やがて現實に新たなる情勢と云ふものが別に開けて來るであらうと云ふことは是は疑ふことの出來ないところでありませう。只今も陸軍省當局のお話がございましたやうでありますが、私は只今參りましたのでお話の內容は存じませぬが、私自身の考へを以て見ますると、今日の所謂支那の問題なるもの、支那事變なるものが汪兆銘氏の出動に依つて如何なる情勢に轉換して來るかの問題、恐らくはこれは何等かの變化を生ずる一契機になるでありませうが、此の支那事變の直接の收拾が如何なるものに到達するに致しましても、今日の世界の現實情勢と、我が皇國本來の歷史的使命と云ふことを考へまするならば、今や我國の關する世界は一大變動の第一歩に入つた時に外ならないと

ふ事實を否定することが出來ないと思ふのであります。詰り支那事變といふものはそれ自體に成程我國振古未曾有の事件ではありまするけれども、我が皇國の前途に展開するでありませう所の、將來の世界的な事件と云ふものを思ひまするならば、未だ僅かにそれは其最初の第一段階にあるに過ぎないであらうと云ふこと、是は今日活眼を以て遠く廣く現實の世界を眺め、内に深く皇國の意義を思ふ我が國民が何人も否定することの出來ない事實であらふと思ふのであります。

かゝる意味に於て吾々は先づ我が國家の國防、東亞の國防と云ふ事に付ては今後共に一層其の念を深くして行かなければならぬと思ふのであります。之に就きましては先程も申しまする通りにただ物資だけの事に心を擒へられてはならぬのでありますけれども、さう云ふ重大な根本の態度を誤まらぬといふ前提の下に於て、飽迄も矢張り物質的資材の重要性はこれを強調せんとするものであります。かゝる關係に顧みまして、此の興亞紀念日に當り、茲に私は所謂鑛物性資源なるものに就て、若干の事柄を申上げて見たいと思ふのであります。

話の末筋に入るに當りまして、最初に此の鑛物性資材若くは鑛物性資源なる物を利用し、若くは確保すると云ふ事に就ての國家の經濟政策と云ふものが、平時とそれから戰時とに於て、非常に異なつた所があると云ふことに一言觸れて置きたいのであります。

一體鑛物性資材なるものは、天然の原始生産物としての鑛物性資材をば其儘に消費する場合と、それから更に天然の與へる所の鑛物性資材をば、所謂工業的操作に依つて、新たなる財貨に轉化して之

を利用すると云ふ場合とがあります。其の一旦工業生産物となつた所の鑛物性資材なるものは、必ずしも、どこの國でも自分の國で全部それを製造しなければならぬと云ふ必要もなく、又其の可能性もないのでありまするが、事實は今日は其の假令工業的生産物となつた鑛物性原料による資材でも、成べく多く之を自國に於て生産しやうと云ふことに諸國共に努力を進めて居るのであります。さう致しまして鑛物性資材が、自國に於て工業生産品として製造される場合に就ても、亦天然の原始生産物としての鑛物性資材をば、其儘に利用すると云ふことに就きましても、天然の原始生産物其ものを準備し、若くは獲得すると云ふことが、どうしても鑛物性資材に關する限り、重大な問題になつて來るのであります。其天然の生産物たる形を有つた所謂鑛物性資材をば生み出す所の根本となる天然源泉は、それが私の茲に申しまする所の鑛物資源と云ふのでありまして、窒に焚く所の石炭であるとか、或は熔鑛鑛の中に投ぜられる所の鐵鑛石其ものを、直接に資源と申すのではないのであります。石炭とか、石油であるとか鐵鑛石であるとか、其の他いろ〳〵な鑛物性資材なるもの〻天然の生産物の形のものを生み出す源泉のことを、こゝに鑛物性資源と申すのであります。

偖て一般にさう云ふ鑛物性資材を生み出す所の、鑛物資源から、吾々は、其の内外何れの處に有るかを問はず、其所から鑛物性資材なる物を取出して來る譯でありますが、其のこれを取出して來るに就ての所謂經濟政策と云ふものが、平時と戰時とに於ては、若くは平時經濟と戰時經濟とに於ては其場合の根本原理なるものに、非常に大きな違ひがあるのであります。勿論實際に於ては、平時經濟と云

ものは、少なくとも事實上は歐洲戰後にはないのであります。歐洲戰爭に於きましては、列國共に國防の重大なる意義をば、深く國民の腦裡に刻印せられまして、併せて此大戰後の平和條約なるものの、不完全な、若くは正義に反した結論に到達致しました爲めに、戰後に於て實際に於て國際間の不安定な狀態と云ふものが、年々に濃厚になつて參つたのでありまして、さう云ふ國防の重大性の認識と、それから事實上に於ける國際間の政治的不安の激化と此二つの事情の下に、歐洲戰後に於ては年々に所謂、準戰體制若くは準戰的經濟政策 ― 實際の戰爭は起りませぬが、一旦緩急の場合の準備をすると云ふ目標に制約される此の準戰體制、若くは準戰的な經濟政策と云ふものが、どこの國に於ても年々に强化せられて參つたのでありまして、歐洲大戰後はずつとさう云ふ準戰體制下に各國共息詰まるやうな緊張の下に、其國の經濟政策なり萬般の經濟的事務を處理して參りましたのでありまして事實は此平時經濟政策とか、若くは平時經濟狀態なるものは、現實には無かつたのであります。けれども吾々は兎に角觀念としては、所謂平時狀態若くは平時經濟政策なるものを頭の中に描いて、さうしてそれを、所謂眞の戰時經濟狀態若くは戰時經濟政策なるものと對立せしめて考へると云ふことだけはそれは出來るのであります。さう云ふ風に觀念的な取扱ひをすると云ふことが、戰時經濟狀態若くは戰時經濟政策なるものゝ眞面目を明かに把握する上に於て便利でありまするから、一應さう云ふ平時經濟狀態若くは平時經濟政策なるものゝ觀念を描いて見やうと思ふのであります。

一體此の平時の經濟狀態なるものはどういふのかと申しますと、それは國と國との間に何等の戰爭

的危險がなく且つ原料の調達も亦出來た品物の賣買に付ても、國々の間に自由なる所謂通商關係なるものが、完全に實現して居る所の狀態のことを之を平時經濟狀態と申すのであります。さう云ふやうに國と國との間に原料を準備するに付ても、或は出來た品物を賣つたり買つたりするに付ても、寔に自由な通商狀態が何等の障害なく開けて居る、斯う云ふ性質を持つた平時狀態が、實際に成立してゐる場合には、諸國の經濟政策と云ふものは、何を根本の目標にするかと云ふに、其の場合には恐らく國民の物質的生活狀態を高め、且つ一國の文化的諸活動を充實すると云ふことに此の經濟政策の指導原理を置くことになるのであります。

勿論此物質的財貨其ものに、人間に取つての究極の意義があるのではないのでありまして、吾々の物質的資材を重んずる所以のものは、それが現實の人間の生活に於て、人間究極の理想である所の、個人に取つては、眞、善、美、正の此の價値の追及の爲めとか、國家としては國家自體の所謂國家的使命若くは國家的目的と云ふものがありますが、其の國家的目的を遂行する爲めに、物質的な資材と云ふものが必要缺くべからざる手段になるので、それで此個人としても亦國家としても、物質的資材を重んぜざるを得ざるやうになるのであります。

そこで國と國の間に何等戰爭的危險なく、自由通商の完全に確保されて居る場合には、恐らく國家は此物質的資材の調達、處理と云ふことに付ての活動の根本の基準は、其國內の國民の生活狀態を高め、又一面に於ては學問、技藝其の他百般の文物を愈々充實せしめると云ふ爲めに必要な物を準備す

ると云ふことに根本の目標を置くのであります。所がさう云ふ平時狀態に對しまして、一國が戰爭の過程に入つた場合には、其の場合には國家の最高の問題は戰爭に勝つと云ふ事であります。即ち戰爭に勝つと云ふことが、其の場合に於ける國家當面の最大な問題になる譯であります。

そこで經濟政策に於きましても、直接及間接に戰爭に必要なる物質的資材、即ち軍需資材なる物を可能的最大に充實すると云ふことが、それが戰時經濟に於ける所の最高の經濟政策指導原理になるのであります。さう云ふやうに一旦戰爭に入つた場合に、經濟政策が軍需資材を調達すると云ふことに一番大きな目標を置くやうになると云ふことは、それは實に現代の戰爭に於て、戰爭の技術的內容及び規模が、昔に較べて全く一變致しまして、所謂高度工業的な生產物と云ふものが、戰爭の遂行、戰爭に於ける勝利の達成の爲めに缺くべからざる物質的條件になつたが爲であります。

此の物質的諸資材が、戰爭に於て缺くべからざる所の要素になつたと云ふ事から、更に又延ひて戰爭の規模が、空間的にも、時間的にも擴大されるに至つた、此事が一國が戰爭の過程に入つた場合の經濟政策の上に於ては、軍需資材の調達と云ふことに殆ど唯一とも云うて然るべき程の最大の重さを置かざるを得ないやうになつた根本理由であります。

斯樣に致しまして、戰爭に勝つ爲めには、銃後の國民はその國民經濟の總力を擧げて軍需品の調達に向つて之を動員しなければならぬと云ふことになる譯であります。さう云ふやうに一國の經濟政策が軍需品の十分なる調達と云ふことに最大の目標を置くやうになる結果は、銃後の國民生活に於ては

必要缺くべからざる所のものに限り、それを最小限度に供給すると云ふことに止めて、必要缺くべからざるものでない所の物は、成べくそれを民需の手に供與せずして、これを供與する力を以て軍需資材の調達を補强し促進すると云ふことになつて參るのであります。即ち最大限度の軍需資材を準備する爲めには、出來るだけ最大限度に他の方面に用ふべき物資資材の消費を制限すると云ふことが、止むを得ざる戰時經濟政策の指導原理となるのであります。さう云ふやうな戰時經濟政策の特質をば、最も極端な形で平時經濟政策の特質と對立して、之を一言に云ひ現はしたものに所謂「バタか大砲か」と云ふ言葉がドイツに於て用ひられて居ります。今日ドイツのナチス黨の副總統であるヘツセと云ふ人が、此のバタか大砲かと云ふことを唱へて、之を以て今日のドイツの經濟政策を指導して居るのでありますが、能く是は今日現下の情勢に於けるドイツの經濟政策の眞面目を端的に喝破した所の言葉であります。

マドイツの航空大臣であるお馴染のゲーリング將軍は、鐵は一國の强化を齎らしたが、バタは只徒らに國民を肥滿せしめたに過ぎない。之れ吾人がバタの使用を制限する所以である、斯う云ふ風に述べて居るのであります。

さう云ふ譯でありまして、バタか大砲かと云ふ言葉に依つて平時經濟とそれから戰時經濟の特質が端的に表現せられるのでありますが、さう云ふ相違がいろ〳〵な方面に實は現はれて居るのであります。

先づ第一に平時經濟狀態に於ては、具體的に其國の經濟政策がどう云ふ風になつて參るかと云ふと國民が持つて居る所の勞働、資本若くは資源と云ふものゝ結合的能率をば、國際關係の間のいろ〳〵な國の勞働、資本、資源の結合的能率と較べて、所謂國際關係といふ廣い舞台の上での評價から眺めて、各國が夫々自分の國の勞働及び資本、資源と云ふものをば、夫々自分の國としては相對的に最も有利に使用し得られるやうな生產部門に向つてそれを結合して利用して行くといふことに努力して、さうして自國に有する所の勞働の性質、自國に有る所の資本の量及び性質、資源の種類性質及び量がこれを結合して利用するに比較的に不適當な方面の使用には其の國で手を着けず、其の生產部門から出來る品物を最も安くそれを自國に供給して呉れる國から自由に買入れて、それを以て自國の賄ひを付けると云ふ事、これが完全な平時經濟に於ける場合の經濟政策の態度であります。斯う云ふやうな風にして自分の國の生產諸要素をば最も能率高く利用し得られるやうな生產部門に片寄つて全力を傾注して、さうでない生產部門の生產物は自由に外國から買入れられると云ふ狀態の下に於きましては、一國の中で原料が、殊に又鑛物性の原料が十分に供給されるかどうかと云ふことは、自國の鑛物資源から必要な鑛物性原料が十分に供給されるかどうかと云ふことは、大した問題ではないといふことになるのであります。

御承知の通り我が國は棉と云ふものは昔はありましたが、今日は殆どない、棉は或はアメリカから或は印度から、或は埃及から買入れても尙且つ世界第一流の紡績國となり得たのであります。又それ

は植物性の原料でありますが、鑛物性原料にしてもさうであります。自由に通商交通の出來る時には自國の勢力範圍內自國の軍事勢力支配圖內に、若くは政治的勢力權內にありまする鑛物資源を持つと云ふことは、凡そ意味の無いことだとは申しませぬけれども、左して重大な事でないのであります。

今日迄御承知のベルギーと云ふやうな國は、矢張り天然資源の豐富な國でありませぬけれども、尙能く以て彼の國民の勞働と資本を以て其の國の產業を發達せしめて居ります。即ち原料を他國の勢力範圍に仰ぎ、製品を他國に賣つて其の生活を立てゝ居るのでありまして、決してベルギーの產業狀態が發達せざる狀態にあると云ふ譯ではないのであります。

所がさう云ふことは、全く戰爭の危險の無き場合に於て現はれたる狀態でありまして、一旦戰時經濟狀態に入るとか、若くは戰爭の危險極めて濃厚なる狀態の所謂準戰時的經濟時代に於きましては、經濟政策は右申しましたやうな平時經濟政策と異なつたやり方をして行かなければならぬのであります。即ち戰爭に必要なる物資と云ふものは、成べく十分に自國內に於て之を供給しなければならぬ。隨つて又原料の供給と云ふことが成べく多く自國の勢力範圍內に於て出來得られると云ふことに理想を置かなければならぬのであります。即ち此原料亦に其原料を利用しての工業的な軍事資材の自給能力が高い程其國の戰時經濟力と云ふものは强大である、斯う云ふことになるのであります。

又反對に、原料をも、或は其生產物をも、其供給を他國に仰がなければならぬと云ふ狀態にある程

其國の戰時經濟力は、其方面から見る限り弱いとしなければならぬのであります。それは平時の場合に於きましては卽ちどこの國も平時經濟狀態であると云ふことは、どこの國との間でも自由な通商條約が開けて居るのは平時經濟狀態の性質でありますと云ふことは最初に申上げてあるのでありますが、戰時經濟狀態になりましては此の國と國との間の通商關係は非常に其所に大きな妨げを受けるやうになるのであります。

現實に於きましては、決して一國と一國の間に戰爭が開けた所で、其戰爭當事國に對する他の第三國の經濟交通と云ふものが、全く遮斷されると云ふ譯ではありませぬけれども、併しながらそれは程度の問題でありまして、一番極限の事を申しますれば、戰爭當事國に對しては第三國との經濟交通も全く無くなると云ふことも考へなければならぬ。

又戰爭の相手國其ものが、假令平時に於ては有力な物資の供給國であつたとした所で、それが一旦戰爭當事國になれば、其所から物資を仰ぐと云ふことが不可能だといふことになる譯であります。さう云ふことを考へますならば、戰時經濟狀態の下に於ては、原料も亦其生產物も成べく多く自國に於て所謂自給し得ると云ふことが、戰時經濟力を强大ならしめる根本の要件であると云ふことが分るのであります。

かくの如くして近年の世界的な準戰體制下に於て、各國が自國の領域乃至は其の勢力圈內に、なるべく豐富な資源を持たんと欲し努力するに至つた事情は、更に別の事情によつて現實には一層拍車をか

けられて參りました。それは所謂各國の恐慌對策であります。

國際關係の錯綜の上での相對的有利な方面に、其の國の生產要素を用いるといふ合理的な經濟政策をとる餘裕が無い程に恐慌が激化して參りましたから、とにかく、有利不利を超越して全面的に其の國の生產諸要素を運轉し活動せしめんとして、其の爲に高い關稅だとか、輸入制限だとかといふ制度を設けざるを得ないやうになり、なるべく外國の製品を買はないやうにするといふ態度がだん〳〵諸國に著しくなつて參りました。そこで國際間に物を賣ることが困難になつて參ります。物が賣れないから、さういふ時勢には國內にいろ〳〵な資源が不足してゐて、主として勞働や技術を國內自給の有力な生產要素にして工業を行つて、廣く各種の物財を外國に需めて國を立てるといふ國柄としては、國及び國民に必要ないろ〳〵な物資を買入れる資金が得られなくなります。これはどこの國でも大なり小なりに同じ事情でありますが、所謂資源不足の國柄程、其の惡影響が强い譯であります。

買へない又買はないとすると、自國及び其の勢力圈內にてなるべく原料の自給力を擴大强化せねばならなくなるといふ譯であります。さういふ譯で國民生活の上からも國內及び勢力圈內の資源の豐富といふ事が重大問題になります。それと準戰的要求とが結びついて資材物資の自給力擴大といふことを求める聲が世界の大勢となりました。しかし何といつても此の際國防的要求からの資材自給といふことを無視することは出來ないので、以前は軍艦や軍隊についての所謂軍備競爭といふ事が八釜しい問題でありましたが、最近では寧ろ根本に遡つて資源的國防準備の競爭といふことになりました。こん

な譯で、所謂、持つ國持たぬ國の問題が起つたのであります。

右に申しました事が先づ平時經濟と戰時經濟の違つた點の第一であります、即ち平時に於てはいろ〳〵な財貨の自給と云ふことが問題ではありませぬが、戰時になりますれば自給と云ふことが非常に大きな經濟力の强弱を決定する要素になる、斯う云ふことであります。

それから第二は、平時の經濟狀態に於きましては生產活動と云ふものは、專ら費用原理と云ふものに從つて行はれるのであります。即ちどこから資材を求めるか、即ち其の原料調達の源泉をどこに求めるか、又假令外國から原料資源を求めるにしても、どの種類をどの程度のものに限るか、或はどの程度に國內の資源を利用するか、其の種類の選擇を如何にすべきか、總て之等のことを決定する所の根本原理は費用の原理であります。成べく安い費用で原料が調達出來、成べく安い費用で物資が調達出來ると云ふことが、それが平時經濟活動を規律する唯一の根本原理であります。費用の點で劣つた仕事は何によらず手をつけないといふのであります。

所が先程申しました通り、なるべく自給の範圍を廣くするといふことが根本原理になりますといふと、最早此の物資調達に關する費用の高低と云ふことは全然問題にならぬではありませぬが、其重要性は非常に低くなりまして、先づ國內に於ていろ〳〵な物質資材が供給されるかどうかと云ふことがそれが正面の問題になつて參ります。極端の場合には全く費用の高低を無視して、國內資源の探求又は開發と云ふ事が戰時經濟政策の指導原理になつて來る、斯う云ふ譯であります。これは、鑛物性資

材乃至資源について特に顯著な傾向であります。

第三に戰時に於ける原料資材の自給力と云ふものは、平時經濟狀態に於ける所のそれ等各種の自給力若くは生產力、一國に於てどれだけの原料殊に軍需原料が調達出來る、一國に於てどれだけの軍需原料を生產し得られるかと平時狀態を以ての資料で推定出來ず、いろ〳〵異つた狀態を生ずるといふ政策が行はれるやうになります。即ち戰時に於てもどれだけ軍需原料の調達が出來るかと云ふことは平時の事實を示す所の統計的資料などでは全く判斷の出來ないやうな違つた結果を生ずるのであります。何故戰時經濟に於ける所の一國原料資材の調達が、平時の統計を以て判斷し得られないかと云ふと第一の理由は前に申しました、戰時經濟に於ては費用を超越した原料資源の開發が行はれると云ふことが其の一つの理由であります。

次ぎには御承知の通りに、戰時經濟時代にはどこでも大きな問題になるのでありますが、所謂古金或は屑金若くは戰時緊急ならざる資材を他の生產物の原料にすると云ふさう云ふ事が大規模に行はれるのであります。是は後にも觸れますが、一國が古く工業國として發達したかどうかに依つて其方面からの原料自給力に非常に違ひが生じて來ます。例へば到る處の橋が木で出來て居ると云ふ國と橋も梯子も其の他いろ〳〵の用材が鐵で出來て居ると云ふ國では、又道具でも、桶で顏を洗つて居るのと鐵や銅器で顏を洗つて居る國とでは、一旦緩急の場合には、さう云ふものゝ供給力から見れば、非常に大きな差があると云ふことは申す迄もありませぬ。さういふ各種資材や廢物を打毀はして古金とし

或は川から古釘を上げてそれを原料にすると云ふやうな事は恐らく平時狀態に於ては考へられないことであります。何となればさう云ふやうな事をするのは普通の方法で鐵を造るよりも國民經濟全體から見て費用のかゝることであるからであります。しかし費用を超越して資材を探求しなければならぬといふ場合にさう云ふことが起つて參ります、更に又其の次ぎには原料資材の方面の制限と云ひ、又代用品の發明と云ひ、之等の事が戰時經濟狀態に於ける軍需資材の原料供給力と云ふものに就ては平時の狀態から押して、直ちに結論を生み出すことが出來なくなると云ふことの理由の一つであります。

續いて四番目には平時に於ては、例へば一國の版圖內の或る場所に原料の資源がありとすると、それを一國の原料資源として算盤に入れることが出來るのであり、又資源が無ければそれまでの計算になる譯でありますが、一旦戰爭になつたと云ふ時には原料資源の所在地が果して敵國の襲擊を受ける所に在るかないか、假りに敵國の襲擊を受けなくとも、其地帶が軍隊機動の中心地になるかどうかと云ふやうなことで、平時に於ては有力な原料供給の源泉であつたものが、戰時に於ては最早其の役をしない場合が起り、或は敵側に屬した資源が自國軍力の占據によつて利用し得られるやうにもなるといふ事が起つて參ります。歐羅巴等に於きまして、國々、境を相接する場合に於て、たとへばフランスのローレン地方の鐵鑛物資源と云ふものは、一旦緩急の場合にどの程度まで其所に依賴することが出來るか歐洲戰爭中にそこは獨軍に占據されて獨逸の資源となつたのであります。又ルーマニヤの石油資源も獨軍占據によつて獨逸の利用に供せられました。それからイギリスのやうな場合にありましては

申す迄もなく平時でありますならば、印度は植民地として有力なる原料資材の供給地であります、或は濠洲にしてもさうであります。ところが一般に此外地乃至植民地と云ふものは母國から隔つて居る。そこで植民地の資源と云ふものが、平時に於ては當然其國の資源として計算せらるべきものであります けれども、戰時に於ては、それはどの程度迄其植民地的資源を自國の軍力が保護し得られるか、防衛し得られるかといふことにかゝるのであります。平時に於きまして植民地の資源が利用されるからと云うて、何時迄もそれが戰爭の時代にも計算の中に入れ得る資源として取扱ひ得るものではないのであります。これは戰時經濟政策が軍力によつて根本的に影響されるといふことを語る一例にもなります。

大體以上のやうにして戰時經濟狀態と、それから平時經濟狀態との性質の違ひを申述べたのでありますが、是から第二段の話として、いろ〳〵な戰時經濟的重要性を有つ鑛物資源の箇々に就て其の意義を申上げて見たいと思ふのであります。進んで最後に各國の鑛物資源上の實力の比較を申し上げたいと思ひますが、成べく話の速度を進めて豫定の計劃に達したいと思ひます。

先づ此戰時經濟上に於て、必要な鑛物資源と云ふものゝ第一は石炭であり、第二は石油であります。續いては鐵鑛があります。何故此鐵であるとか、或は石炭であるとか、石油であるとか云ふものが、戰時經濟狀態に於て、特に必要であるか、何故重要な意味を持つかと云ふと、第一にそれ等の物が總て極めて大量需用性の物である、非常に必要の分量が大きいと云ふことであります、第二にはそ

れの目方並に構造上の性質の點から見て運送が技術上極めて困難であり或は費用がかゝり、或は經濟計算上甚だ生産地よりの移轉が不利益であると云ふことであります。更に進んでは其の代用品と云ふものが容易に得られないと云ふことであります。即ち必須の物資であるといふ點であります。

此錢、石炭並に石油と云ふものが、以上の性質から見まして外國の供給を仰ぐと云ふことが、平常でも困難であり、不利益である。況んや戰時に於て一層其の事が困難になる。

先づ第一に石炭を問題に致しまするが、石炭と云ふ物が今日の經濟に於て、平和狀態に於ても極めて重要な物であると云ふことは申す迄もないのであります。戰時の經濟に於ては錢道の輸送量が非常に增加する。其所から石炭の需用增加が起る、軍需工業に於て石炭の需用が增加する、軍需工場に於ては、大は戰車であるとか或は重砲であると云ふやうなものを造ることから、小は一個の錢砲玉の莢を造ると云ふことに至るまで、皆其の背後に石炭の消費を伴ふのであります。更に進んで今日は右の燃料以外に原料としての石炭の重要性と云ふものが非常に注目せられなければならぬやうになつて居ります。即ち戰時經濟上に於て石炭は燃料としてのみではなく、更に原料として有つ重要性に着目しなければなりませぬ。所謂石炭から加工製造せられる所のベンゾールと云ふものは御承知の通り石油に乏しい國で動力資材としてベンヂンの代用をします。又石炭から採る重油はデーゼルエンヂンに用ひられます。又榴彈であるとか。水雷、地雷、魚形水雷又は激爆藥に造り上げられるトルオールと云ふ化學生産物、或は硝酸であるとか、爆藥の素材になる所のアンモニヤ化合物であるとか、是が皆石炭

から採られるのであります。

歐洲大戰の當時に於ける石炭の需要と云ふものが數量的に非常に莫大なものに上つて居るのであります。斯樣にして石炭は燃料として、又原料として需要が增加し、之を輸入に依つて其の需要不足分を補ふことが出來ないとすれば、どうしても一國内であるとか、或は其國の軍事勢力の支配し得る範圍内に於て石炭資源を持つと云ふことが、戰時經濟上の本質的な强味になると云ふ譯であります。勿論、埋藏があつたゞけではならぬのでありまして、それを開發する爲めには莫大な勞働力の追加と云ふものも無ければなりませぬ。

さう云ふ譯でありまして、只埋藏が有つたゞけではまだ目的を達し得ないので、勞働力が伴はなければならぬ、又資本も伴はなければならぬのでありまして、それ等の他の要素に限りがありまするから、假令一國内に石炭の埋藏資源かどれだけありましても、戰時經濟狀態になつて石炭の軍事用の需要が增加すれば、勞ひ他の方面に於て節約し得るだけの石炭は節約して行かなければなりませぬ。例へば輸出に向けられない平和産業用の石炭の消費であるとか、或は家庭生活に用ひられる瓦斯用、發電用の石炭の消費と云ふものを節約したり、若くは軍事用に直接關係しない列車の運轉數を減じたり、いろ〳〵な方面に於て民需用の不便を忍び得られる程度までに制限して、矢張り石炭の需用を軍需方面に於て出來るだけ多く遂げ得られるやうな方法を講じなければならぬ譯であります。

石炭に並んで重要な鑛物性資材は石油であります。此の石油と云ふ言葉は日本の言葉で、實は非常

に廣い意味を有つて居りまして、學問的には正しいものでありませぬから、實は鑛油と申すべきでありますが、それは吾々の耳に聊か生硬に響きますから矢張り私は茲では石油と申して置きますが、石油ランプに使ふ石油よりは其の意味は廣いものであると云ふことに御承知を願つて置きます。

此石油の戰時重要性と云ふものは、最近數十年間に益々擴大して參つたのであります。既に歐洲大戰に於て、聯合國側の勝利を得た一つの原因が石油の使用に不自由を感じなかつたと云ふ所にあると云はれて居るのでありまするが、歐洲戰爭後に於きましては、其石油の軍需的意義と云ふものは益々增加して參つたのであります。陸上、海上、空中の石油燃燒動力と云ふものが、いろ〳〵な軍事的意味を持つて居ることは目前に吾々の能く承知して居る所でありまして、現代の戰爭に於て石油の調達が十分に行はれるかどうかと云ふことは、實に戰爭の勝敗を決定する一大要因であります。數百千台の飛行機の飛行、自動車に依る所の一大機械科師團の進軍移動若くは數百千台の戰車隊の進行と云ふやうなものは、全く此平時に於ける所の國民經濟内に運轉する民間用自動車の使用するガソリンの使用量に比較してどの程度にそれを制限したならば、戰場に於ける石油の調達が出來るか、到底民間の節約だけで補ひ得られるものでなく、又其の數層倍に達し、時には數十倍にも達すると云ふことは、是も既に實證せられて居る事實であります。兎に角さう云ふ風に今日の戰爭に於ては、石油は實に缺くべからざる物資であります。石油の天然資源豐富ならざる國に於ては、どこの國でも平素から之を十分に貯へて置くと云ふことが必要になる譯であります。

所が此石油の貯藏と云ふことは、技術上にも非常に困難であります。又費用もかゝることでありますから、長期の戰爭には絶對に平時からの貯藏石油のみで賄つて出ると云ふことは、事實上は非常に困難であります。でありますから素人目には一見平素の所謂貯藏に依つて天然石油の乏しき國の弱點を補ひ得るやうに見えますけれども、實はそれだけで事を全うすることは非常に困難であります。でありますから一旦戰爭狀態に入りまして天然の石油資源を自國に持たぬものは、勢ひ引續き外國からそれを仰ぐことに努力しなければならぬ譯であります。左もなければ一刻も早く自國の勞力内に石油資源を持つことに力めなければならぬ、我が國は今日の處、實際を申しまするが、石油の資源が十分でありませぬから、今日の我が國の戰時經濟に於て、對外貿易上一番重要な問題は石油の輸入であります。勿論石油に限りませぬ、或は機械其の他の鑛物資材も輸入して居りますが、石油の輸入と云ふことは一大問題であります。之等の戰時缺くべからざる石油資材を外國から輸入する爲めに、吾々は民間の生活に必要なる品物を、外國から買はなければならぬ物は出來るだけ極度に之を制限しなければならぬ。又石油等の外國から買ふ必要のある物の輸入力を確保する爲めに輸出を盛んにしなければならぬ譯であります。

吾々は今日の現實の國際經濟若くは國際政治關係から云ふならば、之等の物の外國輸入と云ふ事も決して念頭から離して置いてはならぬ問題であります。さう云ふ譯で輸入も重大な問題でありますけれども、併ながら石油の自國産の乏しい國では矢張り外國輸入の困難と云ふことから、他の方法卽ち

石炭の液化と云ふ方法に依つて石油を自給すると云ふことが、今日英國でも、或はドイツでも、フランスでも、若くはスペインでも皆此自國産の石油の乏しい國は、力めて此方面に自給の源を求めて居る譯であります。尤も此英國で人造石油に努力して居る理由は、石油の自給ばかりでなく、他方石炭産業の不振を救助して、さうして勞働者若くは石炭資本を救濟しやうと云ふ爲めに人造石油業を奬勵する一つの理由はあります。兎に角今日ドイツでも、フランスでも、イギリスでも、極力人造石油の事業の發展又其の生産力の擴充强化に努力して居ると云ふことは、實に現代生産界若くは現代工業界の注目すべき事實であります。イギリスの新しい工業としては、染料の合成とそれから石油の合成、是は政府が極力國帑を費して其の發達を助成して居る所の産業部門として注意せられて居るのであります。

所が此石油と云ふものが、石炭よりこれを生産すると云ふことが容易に出來るかと云へば、容易に出來ませぬ。兎に角石油を石炭から造ると云ふことは、其の設備が極めて複雜であり、大規模なものでありますので、平時に於ては、石油資源のない國でも、全く天然産の石油を利用せずに石炭からの石油で用を達して行くと云ふことは、費用の點から許されないのであります。然らば國帑を傾けて戰時中に必要なる石油の分量を十分に供給し得られるだけの人造石油設備を造つて、それを平時に於て使はずに置いて、一旦緩急ある場合に運轉することが出來るかと云ふと、それは經濟上、財政上の理由から仲々困難であります。さう云ふ譯でありまして、實際は右申しまする通りにドイツでも、フランスでも、イギリスでも皆この石油の、石炭よりの合成と云ふことに非常な努力をして居りまするけれ

ども、今日迄達し得られたる其の生産能力なるものは、實は國内需要の一部分に過ぎないのであります。實際今日の處我が國のことは別にして、彼の歐羅巴の有力國で石油の天然資源に乏しい國々が石炭からの合成に努力して居りますが、果してそれ等の國がさう云ふ人造石油だけで、戰時に於ける石油の需用を完全に確保し得ると考へて居る國があるかどうか、又確保せんと決意して居る國があるかと云ふと、甚だ疑問であります。詰り人造石油と云ふものは、イギリスにしても、フランスにしても、ドイツにしても、其の生産擴充强化には努力して居りますが、戰時必要な石油を皆之に依つて賄はんと決意して居るとは事實上思はれないのであります。只外國からの輸入が一時杜絶したる場合に其の期間を賄つて出ると云ふことに、主たる重點を置いて居るのでないかと吾々は考へて居るのであります。

此石油を石炭から取ると云ふ外に、所謂木炭自動車と云ふやうなものゝ發明に依つて、石油の使用を制限すると云ふ方法が、既に歐洲戰爭當時に於てもフランス軍隊に試みられた所でありますけれども、事實上は之等の木炭の使用と云ふやうな事でも、未だ完全に石油の必要を無からしめ得ると云ふ程度まで達してゐないのでありまして、吾々は能迄も石油資源と云ふものゝ戰時經濟上に於ける所の重要性と云ふものを認識して置かなければならぬと思ひます。

それから戰時經濟の大量需要の鑛物資材は、第三に鐵鑛であります、此鐵鑛と云ふものは、石炭や或は石油と異なつて、非常に其の存在が政治上地理上萬遍なく現はれて居ります。即ち石油にしても石炭にしても兎に角天與の恩惠と云ふものが不公平であります。所が重要な鑛物資源の鐵に限つては可

なり其の產出が、世界到る處に普遍化して居るのであります。尤も我が國は從來は決して鐵鑛の產出に惠まれてゐたとはいへませぬが、兎に角、鐵鑛と云ふものは世界的に見ると云ふと可なり其の存在が普遍化して居る。同時に此鐵鑛と云ふものは、平素から貯藏して置くことが出來る。原鑛でも貯藏出來れば又鐵材にしたものでも平素から貯へて置くことが出來る。之を石油を貯へて置くことの困難なるに比較して問題にならぬのであります。平時經濟に於ても鐵若くは鐵鑛の貯藏と云ふことは、どこの國でも行はれて居ることであります。又一旦戰爭になつた場合では、どこの國でも古鐵其の他の必要ならざる建設物其の他の器材を破壞して原料にすることも出來まするから、此鐵の供給と云ふことに付きましては、聊か石炭や石油とは事情の違ふ所があるのであります。

更に歐洲戰爭中に於て行はれたことでありまするが、日本でも今日さうでありませうが、戰場に於て放棄せられた所の彈藥莢であるとか、砲彈の筒であると云ふやうな物を拾ひ上げて、さうして之を後方に輸送して再び鐵原料として使用すると云ふやうな事も、戰時必要な場合には行はれ得ることであります。

併ながら一體鐵はどこにも有る、又其貯藏が出來ると云ひますけれども、實は此戰爭中に於て必要な經濟問題、是は中々むづかしい問題になりますが、一國に於て戰時中に於てどれだけの鑛物資材が必要である、それをどう云ふ方法で供給することが出來ると云ふやうな、算盤玉の上での需要と供給との釣合を付けると云ふことが出來れば外に問題はないかと云ふと、必ずしもさうではないのであり

ます。既に兩國が干戈を交へる間柄に立つて、さうして早い頃から他方がいろ〳〵な方面に於て、例へば建設物を破壞し、其他の方法に依つていはば非常手段で必要な鐵材を供給しなければならぬ、とにかくさう云ふ非常な方法を講じなければならぬと云ふことになつたならば、既に其時に於て國民の士氣の上に或る程度の影響が及ぶのであります。詰り戰爭に於きましてはどうか斯うか必要な資材が賄つて出られると云ふのではなくして、出來得るならば多々益々可なりであります。必要な資材は餘裕綽々どこ迄も供給して行き得ると云ふ狀態にあると云ふことが、銃後國民の士氣に關係する問題でありまして、鐵の如き重要な鑛物資材に付ては特にさうであります。でありますから戰場から彈丸を拾つて來る、或は古釘を拾つて來る、或は古建設物を毀はして供給すると云ふよりも、出來得れば國內に十分に資源を持ち、資材を置いて、餘裕綽々として鐵材の供給が出來ると云ふことが、其の國の戰時經濟力に必要な要素と吾々は考へなければならぬと思ふのであります。

兎に角平時に於ても一國の生活上に必要ないろ〳〵な物資を正確に計算すると云ふことは困難でありますけれども、殊に此戰時經濟に於ける所の物資の必要量と云ふものは、之を正確に見積りを立てゝ、さうして物資需要の正確な合理的計畫を立てると云ふことは、有意義でもあり、必要でもありますけれども、餘りに其ことに依賴し過ぎては大きな違算を生じます。一旦戰爭に入つたならばどれだけの年月がかゝるか、又どれだけの兵員を動かさなければならぬかと云ふことは、今日の戰爭に於ては昔の戰爭と違つて其の豫想を立てることは極めて困難であります。詰り戰爭の終結と云ふことに付ての正確

な見透しが、是は戰爭のやうなものは昔からさうである譯でありますが今日に於ては一層さうであります。それにはいろ〳〵理由があります、詰り戰爭の性質が變つたと云ふことに、一言にして申してよい譯でありませう。

歐洲戰爭に於けるキツチナー元帥が、戰爭當初に此戰爭が四ヶ年かゝると云ふことを申した場合に世人悉くそれを嘲笑つたと云ふのでありますが、多くの人は數ヶ月間にして戰爭は終結すると考へてゐたと傳へられて居ります。孰れの國でも速戰速勝は望むところだが、今日の世界の實狀はそれを許しません。又年數が豫定が付かないのと、それから其戰爭に動かす所の兵員の數にしても、今では國民人口の大體一割內外のものまでは限度として戰場に立てる決心をどこの國でも豫定の上では立てゝ居ると云ふことであります。併ながら事實そこ迄、最大限度まで動かすとは限りませぬが、兵役人員の豫定の上にも正確なる豫定を立てることが出來ません。兎に角兵員人數が多くなり、年數が長くなる、そこで必要な軍事資材はいろ〳〵な非常手段に依つて、若くはある必要限度を定めて調達するといふ事も必要ですが、更にいへば、出來るだけ一國內で生み出される資材を以て餘裕綽々と、どこ迄も必要な需要を充して出て行けると云ふことが、少なくとも物質的方面から見れば戰時經濟力的に望ましいことであると見なければなりませぬ。隨つてこれは勿論鐵だけに限りませぬが、平素から貯藏にのみ依つて準備して行くことが不可能であると云ふことを考へなければならぬ。さういふ譯で一國內で此樣な重要な軍事資材を無盡藏に供給する資源を持つと云ふことが、有力な戰時經濟力の要素であ

ると云ふことは、否定し得ないと思ふのであります。

さう云ふ譯でありまして、軍需資材と云ふものに就ては、長年の戰爭に、又國民の中で戰陣に立ち得る資格有る者は悉く之を動員する必要があると云ふやうな場合が起つても、それに對して必要なる資材を供給し得る狀態にあると云ふことが望ましい。更に又戰場ばかりでなく、銃後の防衛に致しましても空中襲擊と云ふやうな事が起りましては、此方面にも亦防衛の爲めにそれ〴〵必要なる資材と云ふものが問題になる譯でありまして、今日の時代に鑛物資源殊に鐵といふやうな重要鑛物資源の重要性と云ふものは、こういふいろ〳〵な方面から見ましても其の必要性の認識を益々加へて行かなければならぬものばかりであります。

とにかく、前申しましたやうにどの位戰時に於て鑛物性資材が要るかと云ふことを正確に豫算を立てると云ふことは困難であつても、或る程度にその手掛りになるやうな手段は無からうかと考へて見ますと、歐洲戰爭の末期にドイツは三百五十万の兵員を動員して之を戰場に立てゝ居つたのであります、其場合に此三百五十万の兵隊の必要とする軍需品と云ふものが、鑛物性資材に關する限りどの程度になつたかと云ふことは、此の場合に一つの參考資料になる譯であります。

歐洲戰爭の末期に、此三百五十万の兵隊を戰場に立てゝのドイツの鑛物性資材の生產と云ふものが、どれだけになつて居つたかと申しますと、每月野砲を二千乃至二千五百門、重砲四百乃至五百門、迫擊砲四千三百門、二十五万挺の小銃、一万五千台の機關銃、二十五万個の鐵帽、一千百万の大砲彈、

一万二千噸の火藥及彈藥、斯う云ふものをドイツが歐洲戰爭中に毎月製造して居つたのであります。是等の製造の爲めに必要とされた所の鐵及鋼鐵は、全軍需用の物を合せまして、其中に若干、非軍需用の物も含んで居りまするが毎月百万噸の鐵を使つたのであります。卽ち兵員一人一ヶ月當り三分の一噸、さうして石炭の消費は一ヶ月當り一千五百万噸と云ふことになつて居ります。此一千五百万噸の石炭の中には已むを得ざる民需用のものも含んで居ります。ドイツのやうな所は薪と云ふやうなものより主に石炭を使うて居るのでありますから、日本の家庭に於けるより其點は分量は多い譯であります。今度の日支事變は勿論一つの戰爭でありますが、之れで戰爭は終るものと考へられない、今後の戰爭に於ける物資の必要と云ふものは、小慧しく計算致す譯に參りませぬが、此歐洲戰爭に於て三百五十万の兵員を動かした場合の必要な鐵、石炭の量と云ふものは一つの參考となると思つて申上げた譯であります。併しもつと需要量は多くなるでありませう。石油に就きましては、歐洲戰爭中に飛行機其の他に利用致しましたけれども、其規模は最早今日では同日の談ではないのであります。フランス、ベルギー戰線では約六百万の兵隊が最後に動いて居ります、茲で一人一ヶ月當りに百瓩の割合で石油が使はれて居つた。それは主にタンク、飛行機に使はれて居つたのであります。一人一ヶ月百瓩の割合で使はれて居つたと云ふのでありますが、今日は海軍諸船隊、若くは銃後の運搬、陸海軍航空用、交通運搬用に石油の用ひられる範圍が非常に擴大して居りますから、其當時の軍需用の石油と較べて今日の石油の必要量が如何なる程度にのぼつて居るかと云ふことは申上ぐる迄もない譯であり

ます。

現代の戰爭に就ての物資の使用量はいろ〳〵の方面から豫測を立てられて居りますが、或る專門家は兵員百万として、其國の必要な重要物資を一ヶ月當り三十万噸の鐵及鋼、四百万噸の石炭、二十万噸の石油及人造石油と云ふものを生產して行かなければならぬと云つて居るのであります。勿論さう云ふものは總て自分の國で生產され、外國に賴らんで全部自分の國で兵器を自給する立前からそれ等のものが自給されなければならぬと云ふ建前の計算でありまして、外國から大砲、鐵砲を買ふと云ふことになれば鐵、石炭の需要量はずつと減つて來る譯であります。歐洲戰爭に於てフランスは多量の軍需品を他國から仰いだ譯でありますから、さう云ふ事情の下に於ては、鐵や鋼石炭の需要量は之れより少なくて濟む譯であります。併し鐵、石炭よりもつと重要なものは石油であります。此の石油につきましては、フランスでは一年に十万噸の人造石油を石炭から造る設備をするとして、日本の金に直して平價を其の設備固定資金に一千七百万圓の資金が必要である、斯う云ふ計算を立てゝ居る人があります。しかし現在日本の計算では遙にそれより低くなるといふ說も聞いてゐます。とにかく一應右のフランスの說に從ひますと、これも必しも實際上の必要數字に關係無い譯でありませぬが、年に六百万噸の人造石油を造るとすれば十億圓の固定設備費が要るのであります。此十億圓の固定設備費は何とか工面出來るとしても、其の設備を運轉する爲めに勞働者が要ります、又技術者が要ります、金の事は第二にしても、其十億圓の設備を運轉するに必要な勞働力、左なきだに勞力不足な戰時に於て、

如何に其國の經濟を困難ならしめるかは申す迄もないのであります。戰時經濟に於ける天然の鑛物資源の重要性と其の徹底的開發の意義といふことを深く考へさせられる譯であります。

大體以上を以て、戰時經濟に於て必要な鐵、石炭、石油に付ての概觀を申述べたのでありますが、其の他の鑛物資材は鐵、石炭、石油に較べますと、戰時經濟的必要性が餘程異なつて參るのであります。又それに關する天然の資源を持つと云ふことも、それ程重要ではない。鐵、石炭、石油の資源を持つ程重要ではないのであります。それは其の所要數量が、鐵、石炭、石油に比較して少量でありますから何等かの方法で其缺陷を補つて出ると云ふことは必ずしも困難ではないからであります。輸入と云ふことに付きましては同時に外貨の獲得と云ふことが問題になりまして、是は決して容易なことでありませぬけれども、併し外貨の獲得と云ふことが可能なる限り、少量なる物資の輸入と云ふことは戰時中でも必ずしも絶望ではありませぬ。然らばどの程度にいろ〳〵な鑛物の輸入が出來るかと云ふことは其國の現實に置かれてある國際政治關係にも依り、戰時經濟狀態にも依り、又地理的狀態にも依り軍力にも依りまして、一概に申されませぬが、兎に角鐵、石炭、石油の三種類が戰時下鑛物資材の中で特別な重要なる意味を持つ、それ等の資源を自國領域なり勢力範圍内に持つと云ふことは極めて重大な意義を有する事であります。

是等の物以外の鑛物性資材には何があるかと云ふと銅、鉛、マンガン、硫黄化合物、亞鉛、アルミニウム、それから鋼鐵硬化金屬であります、鋼鐵硬化用に是非共加へて行かなければならぬ混合鑛物

であります。それから鉛、錫、水銀斯う云ふやうな物があります。銅は亞鉛と合金して彈藥莢を造る、大砲彈の導管を造る。總ての電氣、機械裝置、電氣の導線、懐中電燈から爆裂彈、或は數百万馬力の發電機、皆それ等のものが軍需資材として重要なるものでありますが、これに銅を缺くことが出來ない。鉛は手榴彈、榴霰彈に用ひられるマンガンはそれ自體が直接に戰鬪用に必要なるものではありませぬけれども、併ながら鋼鐵の生産に缺くべからざる所の戰時資材であります。硫黄化合物は硫酸の原料であります、硫酸は戰時經濟的に必要な各種の化學工業の基礎材料であります。亞鉛は銅と合金して軍需用諸用品の錆びないやうな被覆金屬になる。アルミニウムは車輛、飛行機其の他の交通機關の重要な資材になることは申す迄もないのであります。

それから所謂鋼鐵硬化金屬と云ふのは、ニツケル、クローム、ウオルフラム、モリブデン、斯う云ふやうなものでありまして これらは皆鋼と合金して、鐵帽、甲鐵等の軍需用超硬度性鐵、其の特殊鋼製造に使用されます。又アンチモニーは彈丸製造に必要な硬度を鉛に與へるに用ゐられます。又錫は銅と合金して錫銅を造り、更に軍需用必要なブリキ製造の爲に鐵の被覆として用ゐられる。水銀は所謂雷酸水銀となつて爆裂資材の基礎材料であります。斯う云ふやうな物がいろ〳〵ありまして、分量は少ないけれども、矢張りそれ等の物を缺いては、戰時に必要なる軍需資材なるものを造り上げることが出來ないのであります。其の他に貴金屬殊に金があります。これらのものは直接の軍需品ではありませぬが、矢張り對外的物資調達の點から、其の供給は重要な意味があります。しかし、關係が別にな

りますから姑くこれを分けてをきます。凡て右に見たやうな諸鑛物性資材は凡てこれを重視せねばなりませんが、併ながら是が供給を外國に仰ぐことは戰時といへども絶望ではありませぬ。何故ならば分量の少ないものは一杯の船に積んで來ただけでも兎に角或る程度の需要を充たす一艘の船に積んで來る位なことは如何なる戰時狀態でも、所謂外貨さへ準備が出來て居れば、それ等の物を供給されることに付ての可能性が全く失はれると云ふことはないのであります。

歐洲戰爭に於きまして、ドイツは僅かの同盟國と結んで殆ど世界全部の國を相手に戰つたのでありますけれども、それでも尙いろ〳〵な重要資源を絶えず輸入することが出來て、兎に角軍需資材だけは最後迄賄つて出ることが出來たことは御承知の通りであります。只ドイツの困つたのは銃後の生活に必要な資材殊に食糧に餘程困難を感じて來たのでありまして、直接の軍需用資材だけでは兎に角賄つて出ることが出來たのであります。それはいろ〳〵な手段をとつたからでありますが、鐵と石炭との資源に惠まれた事が一番大きな力でありました。併し假令右のやうないろ〳〵な鑛物が外國から供給せられるとしても、自國内にそれ等のものゝ資源を持つと云ふことは有力な戰勝の因になると云ふことは申す迄もないのであります。

最後に私はいろ〳〵な國々を擧げて、さうしてそれ等の國々が之等の鑛物資材に付て其の天然資源から大體どの程度の自給力を持つて居るかと云ふことを一言觸れて置きたいのであります。

一番先きに擧げなければならぬのは北米合衆國でありますが、北米合衆國は世界の有力國の中に寔

に比類稀れなる鑛産自給力を持つて居る國であります。石炭、石油及鐵鑛と云ふものは米國に算え上げられ得る所の全壯丁を戰場に立たしめても、其の程度の軍隊に必要なるそれらの鑛産性資材と云ふものに就て十分なる供給をなし得ると云ふ程のものを持つて居ると云ふことが、今日は明かにされて居るのであります。その天然資源から戰爭に必要な物の九割迄アメリカは自給し得ると云はれて居りますが、就中、鐵、石炭、石油に惠まれて居ります。其の他銅・亞鉛、鉛、硫黄化合物に就ても非常に大きな自給力を持つて居ります。尤も、銅、亞鉛、鉛と云ふものは、平時に於ては若干の輸入をして居りますけれども、一方に輸出して居りますので、それ等の物の輸出を中止する限り戰時に於て之等の自給は困難でありませぬ。只アルミニウムの原料であるボーキサイトは、是はアメリカに缺乏して居ります。けれども此ボーキサイトはアルミニウムの原料として最も有利なりとされて居るのでありますが、今日我が國ではボーキサイト以外に〇〇の利用と云ふことも實行されて居るやうな譯でありまして、又アメリカの近隣諸國からの輸入と云ふことも必ずしも困難ではない事情になつて居ります。それよりも米國々防上の重大缺陷はマンガンと云ふ鋼鐵を造るのに缺くべからざる要素此の種金屬資源の絶對的缺乏といふ點、更に硬鉄硬化要材たるウオルフラム、クローム、ニツケル等の缺乏及び鉛硬化用のアンチモン、ならびに又錫と云ふやうなさう云ふ雜鑛物がアメリカに天然資源として缺乏して居るのであります。重要な基礎的鑛物資材はアメリカに十分ありますが、併しその他のものについて完全に自給し得られるのではなくして、外國の輸入に仰がなければならぬ物があります。ただ概

觀すればアメリカは世界の中で最も鑛物資源に惠まれた國であります。其の上にアメリカが一旦戰爭の場合に外國から其資源への襲擊を受けると云ふ危險性が割合に少ないのであります、太洋の中に獨り離れて立つて居ると云ふ譯であります。併し日本との關係からは別の視角を要します。卽ち石油の重要な產地であるカリフオルニヤは必ずしも安全な地帶と云へないのであります。只石油の主要な產地たるテキサス州、オクラホマ州、ルイジヤナ州、カンサス州、ペンシルバニヤ州、ミシガン州、アルカンサス州等是等のものは比較的大陸內部及び東部にあります。さう云ふ譯でアメリカは鑛物資源には可なり惠まれた地位に在る。其上にアメリカは古い工業國でありますから、一旦必要な場合には茲に利用せられた物は古金として利用せられる物も相當多くなる譯であります。

米國の次ぎに吾々はソ聯のことを問題としなければならぬと思ひます。ソ聯は今日の生產能力と云ふ點からは種々の理由で十分疑はしい點が多々ありますけれども、併ながら資源に付ては相當の實力を有つて居ると云はれて居るのであります。其の生產力も兵員數一千万の軍隊を動かして、比較的短かい期間に限るならばそれに對して十分ではなくとも或る程度の整備はなし得るだけの能力を有つて居るのでないかと想像せられて居ると、云ふやうな譯であります。ただ矢張り此極東の軍隊を歐羅巴へ、歐羅巴の軍隊を極東へと遠距離に其軍隊を輸送しなければならぬと云ふ場合には、物資の使用量も多くなりますから、右の自給力も大いに割引いて考へなければならぬ事は申す迄もない。ソ聯に一番多いのは石炭、鐵、石油の資源でありまして、之等のものは相當に長く軍隊の必要を充たすだけの能力

が有ると云はれて居るのであります。併し此鐵、石油、石炭以外の雜金屬に至りましては調達必ずしも容易でないのであります。亞鉛と云ふものは其の生產力は相當今日自給して居るのでありますが、これも戰時自給の完全といふ點には至つてをりません。ニツケル、アンチモニー資源と云ふものはソ聯に全く缺乏して居ります。其上にソ聯と云ふ國は極めて最近に工業國として發達したのであつて、從つて古い金、古い建築資材で一旦必要な場合に軍需用に向け得られる部分といふものについては多くを期待することが出來ません。アメリカ、イギリス等に較べて殆ど問題にならぬと見られて居ります。とにかく全面的に見てソ聯の重要鑛物資材の自給力と云ふものは決して完全なものではない。鐵石油、石炭に付ては相當なものがありますけれども、其の他の雜鑛物に付てはこれを輸入に仰がねばならぬものがあり、一旦戰爭になつて、バルチツク海、ダーダネルス海、シベリヤ沿海が封鎖されて全く外部からの交通が遮斷されると云ふことになりますと、國防上に非常な大きな缺陷を生ずると云ふことは、專門家の明かに調査して居る所であります。其上に只資源がありましても、之を開發する所の資材勞働力、技術と云ふことが問題になりますが、今日の所ではソ聯の資材、勞働力、技術に於ては、種々な理由で彼に與へられたる天然資源を十分に開發し得る程度に達してゐないと云ふことは、外國の專門家が皆指摘して居る所であります。只極めて限られたる期間の戰爭であれば、物資供給に付て相當な實力を發揮するだらうと云はれて居ります。

第三番目にドイツでありますが、ドイツは石炭の自給と云ふことに付ては隨分大きな力を持つて居

ります。是は英國の類を摩する程のものであり、又鐵資源を與へられて居るのであります。殊に其の北方瑞典は有力なる鐵の產地でありますから、戰爭中瑞典と交通の出來る限り鐵の供給に付ては何等差支ないと云はれて居ります。只ドイツに於ては石油の自給力は殆ど問題にらなないのであります。合成の石油と云ふものも、着々努力されて居りますが、今日の豫定計畫が完成しても、それでも尙ほ戰時に必要な石油の需要の幾分を充たすに過ぎないと云ふことは、ドイツの國で自認して居るのであります。其の他亞鉛と云ふものに付ても、着々と其生產力擴充が進められて居りますから、それが成功すれば完全自給が可能になる、それから鉛、銅と云ふやうな物に付ては、今日輸出されて居る物が停止されれば又一方に於て其の爲めに代用品、又使用の節約と云ふことが大規模に行はれゝば之に付ても憂ひがなからうと云はれて居りますが、マンガン鑛、硫黃化合物は缺乏して居ります、しかしマンガン鑛は最近併合され乃至傘下に入つたチエッコスロヴアキヤに相當資源を有つて居ります。アルミニウム原料のボーキサイト、是も十分ではありませぬが、ボーキサイトの以外に原料を求めるに付ては大なる困難はなからうと云はれて居ります。何と云ひましてもドイツに於きましては鐵と石炭の自給力は完全でありますけれども、石油の自給力がない、又其他の雜鑛物に就ても、矢張り是は將來一旦緩急の場合には外國から供給を仰がなければならぬものが相當あるのであります。

其次ぎには英國でありますが、英國の一番弱點は石油の自給力がないことであります、鐵と石炭とについては可なり强力な立場にあるのであります。合成石油も努力されて居りますけれども、戰時に

於ける海陸空の莫大なる自給能力はふくされに依つては期待することが出來ませぬ。併ながら英國はあゝ云ふ風な海上の國でありますから、海上封鎖の期間が或る短期間であると云ふやうな場合には、其所に合成石油の基礎を遺つて置くと云ふことは、直ちに一つの有力な基礎であることは申す迄もないのであります。雜金屬、マンガン鑛、硫黃化合物も缺乏してをり、それらは偏に海外供給に俟たねばなりません。

次にフランスでありまするが、フランスは鐵に就ては相當に資源がありますけれども、之等の資源が國境近くに横はつて居ると云ふことは最もフランスの戰時經濟力としての重大な弱點であります。ドイツの國境に近く、或はイタリーの國境に近く鑛物資源が横はつて居るのは、フランスに取り輕々に看過し難いのであります。尙ほ石炭は實は十分でないのであります。今日アルサス地方に石炭が有ると云ひましても、平時でも自給自足して居る譯でないので、イギリスや其の他若干のものはドイツから輸入して居る狀態であります。要するにフランスは石油も、鐵も、石炭も鑛物資源に付ては決して惠まれた狀態にある國ではない、殊に戰場になる可能性のある地域に資源が有るのは大きな弱點であります。

イタリーの戰時經濟的の鑛物資材の自給能力はどうなつて居るかと云ふと、イタリーは歐洲列强の中で最も鑛物性資源に惠まれざる國であります。鐵に就ても、石炭に就ても石油に就ても、天然資源は惠まれてゐません。尤も鐵及び石炭には相當の自給能力を持つてをります。又硫黃化合物に就ては

有利な狀態にあります。其の他イタリーが其近隣諸國から、卽ちアルプス地帶、バルカンの諸國からイタリーに鑛物資材を得ることが容易であるかと云ふと、必ずしも容易でないのであります。しかし此の際ルーマニヤの石油とイタリヤとの關係は相當重視すべき點でありませう。イタリーに取つては其の精神、其國民の力は寔に今日の更生イタリーとして舊時の面目を改め、イタリーの國防力は侮るべからざるものになつて居りますが、只國內に確保されて居る鑛物資源と云ふ點から見ると云ふと、イタリーの弱點は蔽ふべからざる狀態であります。只併し誤解のないやうに申しますが、只國內に保有せられて居る資源が乏しいと云ふのでありまして、一旦戰爭のある場合に、其の具體的な供給力がどの程度になるかと云ふことに付ては何事も申して居らぬ譯であります。茲には戰時的な國際政治關係と云ふものがあり、又武力の力と云ふものは直ちに必要なる資材の調達に付て働いて來る要素でありますから、右に云ふ外觀的な觀點から具體的に戰時に於ける鑛物資材の供給能力を完全に豫測すると云ふことは大きな誤りであります。

最後に日本でありますが、日本は今日迄固有の我が領土に於て、石炭の供給力は可なり豐富に有るのであります。勿論是は米國であるとか、カナダ、イギリス、ドイツ、ソ聯等に比較して十分と云ふ譯でありませぬが、決して今日迄の所、石炭の自給力が貧弱であると云ふことはいへないのであります。只鐵鑛の自給力と云ふものは決して豐富ではありませぬ、重要なるものを、或は英領の海峽植民地から、或は支那から仰いで居つたことは御承知の通りであります。肥料資材となる硝石と云ふやうな

ものは我が國にはないのでありますから、從來は輸入したものでありますが、是は御承知の通り空中窒素固定工業が發達した今日でありますから、全く戰時の場合に於て、農業の生產力といふ點に不自由を生ずると云ふことがない譯であります。只殘念なのは石油の自給力が極めて貧弱であると云ふことであります。併ながら石油其の他の缺乏資材に付きましては、吾々は國防的見地から考へる場合には矢張り輸入と云ふことは考へなければなりませぬので、輸入力を確保する爲めに、所謂輸出產業の涵養と云ふこと、並に物價の統制に依つて國內にインフレを起さずに爲替關係を維持して置く、物價を安定せしめてをくといふやうなこと、或は必要ならざる所の外國輸入品を制限すると云ふやうなことも亦角外國からの輸入力を强化すると云ふことに、吾々は戰時に於ても努力しなければならぬのであります。茲に戰時經濟下の重要問題が横はつて居ります。其の外我が北邊地北樺太、若くは南洋諸群島、之等は皆外國の領土でありますが、此の北に南に極めて豐富なる石油の天然資源が隣接してあると云ふことは、我が國の國防上是は私共の學問の直接の問題ではありませぬけれども、茲に看過することは出來ません。北に南に接近して極めて豐富なる石油の天然資源が我が國の周圍に有ると云ふことだけは明かにこれを認識して置く必要あると思ふのであります。これをどうするか、是はそれ等の事を問題にして取扱ふべき人が問題にするでありませう、しかし我が國民はさう云ふ物があると云ふことを承知して置いて然るべきであります。とにかく石油については國內に於ては極めて貧弱な天然的自給力しか持つて居りませぬ。吾々は戰時に於ても輸入力を確保する爲めに必要なる手段は如何なる方

法を講じても、國民經濟の上に實施して行かなければならぬ、斯う云ふことを思ふのであります。それと同時に、惠まれたる石炭を以てする所謂石油合成の發達に努力すべき事は申すまでもありません。その他戰時經濟的方法として益々國内鑛産の探求開發に官民協力して努力すべきであります。

尙ほ之に付きまして我が國の國防資源と云ふものは必ずしも豐富ではありませぬけれども、我が國に忠勇なる軍隊があると云ふこと、並に天然の立場として極めて有利な地の利を得て居ると云ふことは看過することが出來ませぬ。卽ち我が國はいろ〳〵の國々の中心的據點から遠隔の地に離れて居ると云ふこと、極めて長い海岸線を有つて居ると云ふこと、卽ち忠勇なる軍隊を有すること、有力諸國の中心據點から遠ざかつて居ること、海岸線が長いと云ふこと此三つの要素は如何なる强國と雖も武力を以て我が國に對し完全なる經濟封鎖を試みると云ふやうなことを不可能ならしめてをります。經濟封鎖の困難なることは、是は國際經濟、世界經濟の複雜なる組織から極めて容易に解ることでありますが、武力の方面から考へて見ましても我が國は如何なる强國に依つても所謂戰時封鎖をされるやうな立場にないと云ふこと、是は我が國として極めて重要な資材關係の强味であります。併せて我が國内の鑛物資源地帶と云ふものも決して容易に空襲又は海襲に依つて外敵に侵犯され得ざる地位に在る譯であります。此點は歐羅巴諸國の相互間の狀況に較べましたならば、寔に思ひ半ばに過ぐるものがあります。一歩踏出せば直ちに敵國の重要資源地帶であると云ふやうなドイツ、フランス、イギリス、ポーランド、ロシヤに就てもそれ〴〵同じやうな事情にありますが、此點に付ても我が國は非常に事

情が異なつて居ります。けれども、何分にも吾々は、我が固有の領土内に於て、重要資源が決して十分でないと云ふことを明かに認識して置かなければならぬのであります。

所が茲に滿洲及支那殊に北支が我が國と密接不可分の經濟關係に入つて、さうして所謂日滿支連絡の協力的經濟體制を造ると云ふやうな事情に相成つて參つてをるのでありまして、此滿洲及支那殊に北支が如何なる鑛物資源的な重要性を有つて居るかと云ふことは、我が國の今日迄の鑛物資源の狀況から見て決して看過し得ざることであります。尤も滿洲北支に於ける鑛物資源が如何に重要であつても、それがどの程度の能力を有つて居るものであるかと云ふことは、今正確には調査進行中でありますが、併ながら之等の地方と云ふものは、既に今日迄明かにされた所に依つては、日本に取つて一つの弱點となつて居る種類の鑛物資源に付ては極めて大規模に有つて居ると云ふことが明かに發表されて居るのであります。又北支の諸省を總括して推定した鑛物資源の埋藏量は、鐵鑛に付ても或は石炭に付ても、或は天然の鹽に付ても極めて豐富なものが有ると云ふことが報告されて居るのであります。さう云ふ譯でありまして滿洲及北支が今日の所謂東亞新秩序の重要な一要素となつて、我が國と經濟上不可分の協力關係に入ると云ふことは、東亞新秩序の經濟的、物質的基礎を强化する上に於て極めて重要な意味を持つて居るものでありまして、茲に東亞の新秩序の推進力たる所の我が國の固有の領域内に必しも十分でないところの鑛物資源が、此吾々の盟邦たる滿洲及支那に十分與へられて居ると云ふことを顧みるならば、此の我が國が中心となつて東亞の新秩序を遣り、東亞の新秩序を更に

起點として世界の新秩序を造ると云ふ皇國永遠の大使命の觀點から見て、之等の重要なる鑛物資源を持つ所の滿洲及北支が我が國と密接不可分の關係に入ると云ふことの實に重要な意義を認めざるを得ないのであります。

最後に私は今迄は、戰時經濟的な意味のことを申したのでありますが、平時經濟的に考へても、凡ゆる鑛物の中で最も單位價格が低いだらうと思はれる種類の鑛物、卽ち鐵鑛、石炭が最も重要な鑛物資材であると云ふことを申して置きたいのであります。

之等のものは所要重量及容積が大きくて且つ物の性質に基く經濟計算上極めて運搬に困難である、さう云ふ關係からして、之等のものを生む天然の資源が所在することは實は最も重要な意義を持つことになるのであります。卽ち鐵及び石炭と云ふやうな產物は、之を其の本來の產出地から遠隔の地に移動すると云ふことが困難なる爲めに、此鑛物の鐵及び石炭の產出する地帶に寧ろそれに關聯した資本も或は其の他の資材も勞力も皆其所へ引付けられると云ふ性質を有つて居るのであります。

何故それ程迄にして資本も勞力も鐵、石炭の產出する地點に集中するかと云ふと、それ自體運送に困難であつて、而かも鐵も石炭も今日の經濟生活の中に是非無くて叶はぬ要素でありまするから、皆其の重要なる鐵石炭を使用する爲めに、其の使用上必要なる要素は勞ひ已むを得ず其の產出地に集中すると云ふことが起つて來るのであります。詰り總ての關係生產要素が、鐵鑛、石炭の產地を中心にして集中すると云ふことは、平時經濟時代に於ても起ることなんであります。或る意味で云ふならば

實に此鐵殊に石炭は平時經濟に見ても、それが鑛物界の帝王たる性質を持つて居るのでありまして、百般の鑛物資材悉く其の產地に吸收せられ、茲に集中する感があります。實に石炭を支配するもの、石炭を支配する國が世界を支配すると云ふことは、今日でも尙且つ言ひ得られる言葉であります。

さう云ふ觀點から見ましても、滿洲及び北支が斯樣な鑛物界の帝王たる鐵鑛、石炭の無限の寶庫を有つて居ると云ふことは、今後將來の時代に於ける滿洲及び北支の發展活躍と云ふものをして實に刮目に値ひせしむるものであると私は思ふのであります。若しも日本の知識、技術、開發資材を以て此滿洲及び北支の開發に當つたならば、實に滿洲、北支を含む新東亞が茲に新たに經濟的にも世界の中心を展開する時代が必ず來ると云ふことを確く信ぜざるを得ないのであります。是は實に石炭及び鐵が諸鑛物中の帝王であると云ふことを認め、今日の經濟生活に於てかゝる鑛物性資材が重要缺くべからざるものであると云ふことを認むるの結果であります。

さう云ふやうに戰時經濟的意味から見ても、平時經濟的意味から見ても、重要なる資源に富んだ滿洲及び支那、殊に北支と云ふものを、我が國よりの開發資材、我が國の技術、知識、人的要素を以て開發して、さうして之に依つて東亞の國防力を强化し、又平時經濟力を擴充して、以て世界新秩序の展開に邁進し、進んで世界の文物百般を正しき道に發達せしむることを理想とする所の、八紘一宇の我が國家の使命の實現に向つて努力すると云ふこと、其決心なり計畫なりを深く今日の秋に於て定めると云ふことが、それが現代日本國民の世界に對し、又我が國民の祖先に對し、殊には皇祖皇宗に對

しての一番大きな任務の一つではなからうかと思ふのであります。我が國が單に埋藏せられたる所の資源の豐富なることに手を拱いて、何事も成すことなきに終ることなく、進んで此天與の資源を開發して、さうして國民的使命をどうしても實現しなければならぬと云ふ決心を鞏固にすると云ふことが昭和十二年七月七日を記念する爲めの此の週間に於て、吾々の心に深く留むべき事柄ではないかと私は思ふのであります。

いろ〳〵と地味な事柄でありましたので、長い間寔にお聽き難く甚だ恐縮でありましたが、併ながら聊かでも具體的な方面から、今日の我が國の銃後の國民の心掛け、殊に滿洲及び北支に對する我が國民の使命と云ふやうな問題に付て理解を進める聊かの材料でも提供したいと私が考へた爲めに、甚だ興味のないことを長らく申上げることになつたのであります。御靜聽を藏きましたことを深く感謝致します。(終)(拍手)

現下の國際情勢

衆議院議員
法學博士　芦田　均

世界が戰爭になるかならないかと云ふことが、現在世間の大多數が興味を持つて注意して居る問題であります『ヨーロッパで何時戰爭が始まるかは』世界中の人間が賭を張つて居る一番大きな題目だと思ひます。歐米人は賭が好きで『大統領がもう一度選擧に出るか出ないか』と云ふことでも「俺はやると思ふが貴樣はどうか」「よし來た十弗賭ける」と云ふ調子に、盛に賭の題目にする、況んや戰爭になるかならないか、これほど賭にして面白い題目はありません、何百万と云ふ人が賭を張つて居るでしよう。その賭の胴元で、一番大掛りのものはロンドンのロイド保險會社であります、戰爭になりさうだと云ふので戰時保險を掛けに行く人が續々押掛ける、統計を見ますと、今直ぐ戰爭になると云ふ見透しは七對一、卽ち七分の一の戰爭のチャンスだと言つて居りますが、何分ヨーロッパの政局は猫の目玉のやうに變りますから、今の見透しが明日變らないとは誰も保證出來ない。戰爭になるかならないかは、結局ヒットラーの決心一つだと云ふのであります、言葉を換へて申すと、仕掛ける方は所謂防共樞軸と稱するドイツ、イタリーで、仕掛けられる方は之を守つて行かうと云ふ英佛を中心にし

た國々である、斯う云ふ見透しは先づ何人も異存はないのであります。

ところが、ヒットラーの決心一つだと言つても、その肚の中はなか〳〵分らない。ヒットラーがなんと決心が分れば簡單に答案は出來ますけれども、肚の中が容易に分らない、日本であれば高島呑象と云ふ大家もあり、芝公園には石龍師と云ふ骨相學の大家も居るが、ヨーロッパには左樣な大家が居ない、益々以て前途不安なりと云ふのが只今のヨーロッパに常に暗雲の漂つて居る原因となつて居ります。

併し世間はドイツの出て行く方向に大體見當を付けて居る。何故目星が付くかと云ふに、ドイツの國内で、今七・八百万部賣出して居る有名な書物があります、「マインカンプ」卽ち「我が戰ひ」と云ふ書物で、これはヒットラーが一九二三年に牢屋に放り込まれた時に書いた書物でありますが、其中に『帝政時代のドイツが徒らに西に出やうとしたことが間違ひである、將來のドイツは東に出ることが有利である』と書いてある。

此「マインカンプ」はドイツ國内では大多數の人が讀んで居ります、例へば青年男女が結婚して區役所に登錄に行く、日本では結婚屆は封紙一枚に印判を押して出せば、それで結婚は成立するが歐米では大抵新郎新婦が區役所に行つて戸籍吏の前で登錄する例になつて居ります、日本で區役所のお役人と云ふと、佛頂面をして愛嬌のない人間型のやうに思ひますが、向ふでは戸籍吏と云ふと特に愛嬌のいゝお年寄などを選んであるので、新郎新婦が登錄に行くと「誠にお目出たう、どうぞ千代八千代

にお榮えなさい」とニコ〳〵しながら受付けて呉れる。さうしてドイツでは「マインカンプ」一冊を渡して「あなた方はドイツ國民として此書物を熟讀玩味しなさい」と云つて結婚祝に呉れる、だからドイツの國内に何百万部と行渡つて居る、其中に「ドイツの將來は東にある」と書いてあるから、ドイツ人は大本教のお肇先より確だと考へることは當然であります。

それから、ヒットラーが三年前に演說した時に、斯う云ふことを言ひました、「ウラル、シベリヤ、ウクライナ、是等の土地を手に入れることが出來ればドイツは豐富なる資源の中に游ぐことが出來るであらう」と言つた。是等の文獻を接合せて考へて見ると、ドイツは必ず東若くは東南に出ると云ふ判斷が付くのであります。

地圖で御覽になると、ドイツが東若くは東南に出る場合に、差當りの對手方はポーランドであり、ルーマニヤである、東南に進む場合はハンガリーであり若くはユーゴースラビヤと云ふことになります、何れもヨーロッパの二三流の國でありますから、ドイツが出るとしても抵抗力は案外少い、必要とあれば一兵に血ぬらさずして目的を達成することも出來る。

そこでヒットラーの今日までの遣り口を考へて見ると、大戰爭をやつて目的を達するのは必ずしも策の上乘ではない、戰はずして勝つことが兵の最も巧みなる運用であると考へて、何時でも戰はずして目的を達して來た、從つて今後も大戰爭を賭してまで出やうとは考へない、熟柿が赤くなるのを待つて、兵力を傷めずして目的を達する方法に出て居るのでありますから、今後と雖も熟柿が赤くなる

まで恐らく靜かに待つて居るであらう、だから今直ぐ戰爭にはならない、斯う云ふ見方が可なり多い譯であります。

然るにイタリーの方は將來出やうと云ふ場所は地中海であり、アフリカである。地中海の地圖を御覽になると、黑い線はイギリスが頗る重大と考へて居る東西に通ずる交通路でありまして、スエズ運河を拔けて印度、濠洲に達する最も重大なる要路であります、赤い線はフランスがその植民地に對する生命線と考へて居る交通路であります、靑いのは現在イタリーがやつて居る地中海の航空路であります、此三色の線が地中海に錯雜し互ひに交錯して居るのを御覽になれば地中海の英佛伊三國の利害關係は一通り判明することゝ思ひます。

從つてイタリーが地中海に於て現狀を變更しやうとすれば、其刹那から英佛の共同戰線にぶつつかる。アフリカは英佛が絕對多數の土地を持つて居る地方であるから、イタリーがアフリカ方面に手を出せば、英佛の共同戰線にぶつつかることは明瞭であります。現在のイタリーの力を以てしては英佛を敵に交涉を始めて見ても容易に目的を達する見込がつかない、從つて同盟國であるドイツがどの程度までイタリーを本氣で支持して呉れるかがイタリーの動向を決する重大な要素になる。

成る程イタリーは過去一年半ドイツと段々緊密な關係を保つてゐて、ドイツが昨年三月オーストリヤを併合した時、昨年九月ズデーデンを併合した時、或は本年三月チェッコ、スロバキヤを併合した時に、ムツソリーニが演說をし、ローマの新聞は擧げてドイツを聲援した。其結果ドイツは相當の收

穫を得たが、もう追々イタリーにお鉢が廻る番だ、何かありつけさうだと考へるのは、イタリー人としては當然のことである、そこでドイツに對して、大いにイタリーの行動を支持して貰ひたいと云へば無論ドイツは「心得た、お前が出る時には演說もしてやらうし、ドイツの新聞は擧げてイタリーを支持しやう」と言ふであらう。併し英佛を向ふに廻して爭ふ場合には、演說や新聞の支持だけでは一寸引込みさうもない、少くともドイツはフランスの國境に大軍を動かして、罷り間違つたならば英佛と戰爭でもすると云ふ決心をしなければイタリーの要求は容易に遂げられないと思ひます。

それならばドイツはイタリーの爲にサーヴイスして大戰爭をするかと云ふと『それではドイツのサーヴイスの方が釣が出過ぎるぢやないか、お前の方は應援團長の旗を振つて、一兵たりとも今日まで損をして居らない、だから俺も應援團長は勤めるが、それ以上に大戰爭を賭してまで援けるかどうかと云ふ問題は別だ』と答へても、ドイツとしては當然の言分だと思ふ、從つてイタリーがどう出るかと云ふことは、ヒツトラーの決心を聞いた上でなければ容易に決定しない。つまりヒツトラーが立役者で、ムツソリーニは脇役者と云ふことになりまして、結局ヨーロツパの和平は懸つてヒツトラーの胸三寸にあると云ふ理由だと思ひます。

現在ドイツとイタリーは軍事同盟を結んで頗る緊密な關係になつて居る、之に對して英國は同じやうに軍事同盟を結んで之に對抗して居りますが、斯う云ふ二つの陣營に分れてヨーロツパが對立したのは何も二三年來の珍らしい現象ではない、既に今から七十年前にヨーロツパにはドイツ、オースト

リヤの同盟が出來、イタリーが之に加はつて三國同盟が完成した。之に對抗する爲にロシヤとフランスが同盟して、二つの陣營が對立したことは既に古い歴史であります。

何故にヨーロッパに於て斯樣な對立した陣營が出來るかと云ふと、其根本の思想はヨーロッパの勢力均衡と云ふことであります、ヨーロッパは狹い世界に二十六ケ國が密合世帶をして居た、日本では東方の君子國と言つて居りますが、三軒長屋でも井戸端會議はなか〳〵難しい、然るにヨーロッパは二十六軒長屋に住んで居るので、其井戸端會議が常に紛糾を重ねるのは人情の自然であります、百何十年來どうしてヨーロッパの平和を維持して來たかと云ふと、所謂勢力均衡と云ふ原則の下に問題を纏めて來たのであります、二十六軒長家に住んで居る連中が、圖拔けて强い者が出來たならば、外の者が家來扱ひにされると云ふので勢ひ燒餅がはげしいと云ふ譯で、勢力均衡と云ふ原則の下に十八世紀以來ヨーロッパの國際問題を決定して來たのであります。

イギリスのやうな島國でも、ヨーロッパ大陸の勢力均衡には常に神經を尖らして居る、イギリスと云ふ國はヨーロッパ大陸よりも寧ろ外の大陸に利害關係の多い國である、貿易を見ても、ヨーロッパ大陸よりも濠洲、インド、カナダ、アフリカ等に關係が密接である、言葉を換へて言へばイギリスは外の大陸を食つて生きて居る國である。それでもやはりヨーロッパ大陸の勢力均衡に頗る敏感であるのはどう云ふ譯であるか、イギリスは國策の根本方針として二つの問題を常に看板に出して居る、一つは海洋の自由である、今一つはヨーロッパの勢力均衡と云ふ問題である、海洋の自由とは言葉の通

りに見れば世界の海は誰でも自由に闊歩出來ると云ふことのやうに聞えるが、實際はさうではない、世界第一の海軍を持つて居るイギリスの同意を得なければ、外の國は世界の海を勝手に歩けないと云ふ意味で最近までやつて來たそれからヨーロッパの勢力均衡と云ふことは、ヨーロッパ大陸に圖拔けて强い國が出來ると、最後にはイギリスを目指してやつて來る、ナポレオンはヨーロッパ大陸を席捲して最後にイギリスを狙つた、ナポレオンがセント●ヘレナに流されて想出を書いた時に「若し吾輩が英佛海峽を二日間握ることが出來たならば世界の歴史はもつと違つた方向に動いて居つたであらう」と言つて居る、そこでナポレオン戰爭の時十數年に亘つてイギリスは大陸に兵を出して、文字通り借金を質に置いて戰爭をして、ウヲーターローの戰でナポレオンを叩き付けた、それで又再び島國に歸つたのであります。

その後ヨーロッパ大陸は案外平和を維持することが出來ましたが、十九世紀の終にはドイツが勢力をドン〳〵伸ばして、貿易に於ても、海運業に於ても、海軍に於てもどうやらイギリスを追掛ける形になつて、ドイツ、オーストリヤの同盟の力が、ロシヤ、フランスの力を以てしても抑へることが難しい、十九世紀の終のヨーロッパはドイツの覇權が出來上らんとする形勢になつた。そこでイギリスはロシヤとフランスを援けてドイツを向ふに廻はすやうになつたのが、日露戰爭當初、明治三十七年に出來たイギリス、フランスの條約、卽ち英佛協商と稱するものであります、其時始めて英國はドイツを抑へる爲にフランス、ロシヤを援ける決心をした、世界大戰に於て四年半の間イギリスがヨーロ

ツパ大陸で戰爭したのは全く勢力均衡と云ふ政策に基いて居る譯であります、從つてヨーロッパに優越な國が出來て、大陸の覇權を握らうとする場合には、それがナポレオンのフランスであらうと、カイザーのドイツであらうと、ヒットラーのドイツであらうと、必ずイギリスの帝國主義とぶつつかると云ふことは過去二百年の歴史の示す所であり、歐洲の宿命的な運命であると思ひます。其爭が今日まで續いて居る、さう云ふ頭で今日のヨーロッパの出來事を御覽になれば、問題は簡單に諒解が出來ると思ふ。

ところが、最近のヨーロッパの情勢が逼迫したのはどう云ふ理由か。極めて最近にヨーロッパの情勢が逼迫したのは、先づ昨年九月以後と考へて間違ひない、ヒットラーは一九三三年、今から六年前にドイツの政權を握つて、一九三六年までの間は、國内の統一に忙殺されて居つた時代であります、一九三七年、即ち一昨年始めから外交問題の解決に乘出した、詰りドイツが世界政策に乘出したのであります、昨年三月にオーストリヤを併合したが、此オーストリヤは昔のオーストリヤ、ハンガリーの片割れで、ドイツ民族が密集して居る、六百五十万人のドイツ人が、獨立國として殘つて居た、文化に於ても、人種に於ても、同じドイツ人でありますから、ドイツがオーストリヤ併合の際には、關係諸國は案外之に對して苦情を申立てなかつた、オーストリヤは經濟的に獨立の出來ない國である、それが何とか今日まで獨立を維持して來たのは、フランス、イギリス等が金を貸して赤字財政を埋合せて行つたからでありますから、オーストリヤがドイツと併合することは、時間の問題であつて、何

れは當然の運命だと、斯樣にドイツ人も考へ、オーストリヤ人も考へ、公平な第三者も考へて居つたのであります。

ところが、昨年九月になつて起つたのがズデーデンの併合問題であります、ズデーデンドイツのボヘミヤ國境は山脈地帶で、其分水嶺にドイツとの國境が出來て居る、其山脈の内側の傾斜に住む三百五十万のドイツ人をズデーデン・ドイツと言つたのであります。此ドイツ人の住む部分をドイツに併合すると云ふ要求をチェッコスロバキヤ政府に出した、それが昨年九月のヨーロッパの危機を生んだ原因であります、何故ズデーデンを併合する際に英佛ソ聯が轡を揃へてドイツに抗議を申込んだか、ドイツが武力を以て問題を解決するならば英佛ソ聯も亦武力を以て之に對抗すると言つたのはどう云ふ理由であつたかと云ふと、當時のヨーロッパ大陸はフランスとソ聯が相互援助條約を結んで、それにチェッコスロバキヤを引入れて、此三國提携に依つてドイツの進出を抑へる形になつて居つた。ところがチェッコは丁度ドイツの腹の中に楔を打込んだやうに突出して居る、而も其國境は一帶の山脈で嚴重な防備が施してある、ドイツの目から見れば、國防的に最モ厄介なのはチェッコである、經濟的に見ても、ドイツが東又は東南に伸びやうとする場合に、第一の關所として控へて居るのはチェッコスロバキヤである、だから之が一番目障りである、ドイツから見て目障りであるだけに、フランスなりソ聯なりイギリスの如き、ドイツの膨脹に反對の國々から見れば、ズデーデンは最も重大な關所を成して居る、此山脈一帶がドイツの手に入れば、あとは平野地帶であるから、チェッコスロバキヤ

は國防的に到底護ることの出來ない國になつてしまふ、だから、英佛ソ聯邦が共に轡を揃へてドイツに抗議を申込んだ譯であります。

ところが、ドイツは、英佛に到底立上る決心が出來てないと見て、既定の計畫をドン〳〵進めて、九月二十八日までにズデーデンを引渡さなければ、ドイツは兵隊を入れて占領するぞと云ふ通知を出した。九月二十七日、最早ヨーロッパに戰爭避け難しと云ふ空氣が英佛に漲つた日であります、ロンドンに於ては市民二百万人を避難させる爲の準備を始め、街の公園の隅々まで壕塹を造つて、爆擊機が來た時に逃込ます用意を始めた日であります。

ところが其二十七日の午後になつて、ムッソリーニが仲裁を買つて出た、その結果翌二十八日からミュンヘン會議が開かれたのであります、ヒットラーとムッソリーとイギリスのチェンバレン、フランスのダラジェの四人が寄つて妥協の相談を始めた、ミュンヘン會議で協定が出來たのを見ると、成る程名前は妥協であつたけれども、其内容は九割八分まではドイツの言ひ分が通つたのであつて、實際に於て英佛は丸負けである、あれ程力み返つたイギリス、フランスがミュンヘンで兜を脱いだことは大體二つの理由があると思ふ。

一つは當時英佛の空軍勢力がドイツ、イタリーの空軍に比較して著しく劣つて居つたと云ふ事實であります、空軍の勢力は各國共秘密にして居りますから、實際の數字を知ることは頗る困難であります、吾々日本人は我が國の航空勢力がどれ位あるか、當局者以外には誰も知つて居る者がありません

況んや外國の空軍勢力を正確に知ることは頗る難しい問題であります、併し其後發表されたものを接ぎ合して考へて見ると大體分る、昨年九月頃のイギリスの空軍勢力は、第一線飛行機として一、七五〇台持つて居た之に對してドイツは二千五百乃至三千台の第一線飛行機を持つて居つたと言はれて居ります、フランスとイタリーは飛行機の數に於ては同數に近いのでありますが、フランスは長らく空軍の充實を怠つた結果、飛行機の性能に於てはイタリーに劣つて居る、それが戰爭をする決心の付かなかつた一つの理由と思ひます。

當時フランスの參謀總長ガムラン將軍が政府に出した報告書があります、其報告書に、一口に言ふと斯う云つて居る、成る程彼我の空軍の勢力に於て差があることは十分之を認めなければならん、併し問題は飛行機製造の問題であるから、戰爭に入つて一定の時日の間には之を埋合すことも困難でない、戰爭當初は相當苦戰するであらうが、併し今の程度では敵の飛行機の爲に軍の集中が攪亂され、軍需工場が叩き潰されると云ふ程度には達つて居ないから、戰爭を始めても勝利の確信はある、と書いて居る、結局それはどう云ふ考であるかと云ふと、ドイツ、イタリーは速戰速決の戰法を取る軍需資材に乏しい國は速戰速決の戰法で行かなければ不利益である、長い戰さをしては結局損である。之に對抗する英佛は長期戰を以て裏を掻くより仕方がない、從つてフランスはドイツ、イタリーの國境全般に亘つてマジノ線と云ふ頗る嚴重な近代的の萬里の長城を築いて敵の侵入を防ぐ計畫を立てゝ居ります、イタリーとの國境はアルプス山脈でありますから峠は六つしかありません、其六つの峠を嚴

重に固めて、國境はイタリーの方に傾斜が長いのでありますから、イタリーがフランスを攻めることは相當困難な地形であります、從つてフランスの計畫は、ライン河でドイツを防ぎながらイタリー國境で攻勢を取らうと云ふ作戰計畫を立てたのであります、さうすると飛行機の力が一體どれ位の勝敗に影響があるかと云ふ問題になるのであります。

近く歐洲戰爭が始まれば、戰爭は長いか短かいかと云ふ問題が數年來ヨーロッパで論議されたやうであります、イタリーの空軍專門家のドーエットと云ふ將軍は、新式武器が發達した今日、ヨーロッパに戰爭が始まつても、精鋭な武器、優勢な空軍を持つて居る國が戰爭の初めに徹底的な打擊を與へるから、戰爭は短かいと云ふ意見を發表した、それが動機となつて數年來フランス、ドイツの專門家の間に種々議論が闘はされて居りますが、最近の結論に依ると、ヨーロッパ大戰が起れば結局長期戰になる、所謂消耗戰になると云ふことに多數の意見が歸一したやうに聞いて居ります。

それはどう云ふ意味かと云ふと、成る程新式武器は非常に發達した、殊に飛行機の發達は顯著である。併し飛行機の力だけで勝敗を決する譯にはいかぬ、最後の決は地上部隊の決戰に依つて決まると云ふことが一つの理由であります、もう一つは、新式武器が攻擊力を增したことは確かであるが、同時に防禦力も亦之が爲に增して居る。新しい機關銃一台は昔の機關銃に較べて、十倍、二十倍の攻擊力があるが、それと同時に嚴重なトーチカの中から一挺の機關銃を以て一聯隊或は一個旅團の步兵でも容易に難倒せると云ふ事になつた。

スペインで內亂をやつて居りました、內亂と云つても、フランコ將軍はイタリーの援助、ドイツの援助を受け、あらゆる新式武器を供給され、マドリッド側はソビエートの援助を受け又ヨーロッパ、アメリカから新式武器を購入して之に當つた、內亂とは言ふが實際に於ては世界戰爭の見本をやつて居つた、この戰爭には新式武器を使つたに拘らず約三年かゝつた、支那事變は日本の空軍の勢力と支那の空軍の勢力を比較して、二十分の一と云ふか百分の一と云ふか、支那の空軍勢力は殆ど問題にならないにも拘らず、二年の歲月を費して蔣介石は猶且つ百數十万の軍を擁して頑張つて居るだから新式武器が發達したと云つてもそれが爲に必ずしも戰爭を短縮するものでないと云ふ結論になつたやうに思ひます。

さう云ふ理由で、最後の決は地上部隊の力に依つて決まるのでありますが、地上部隊の力を比較すると戰後引續き徵兵令を施行して居つた國は多數の訓練ある豫備兵を持つて居る、ポーランドは過去二十年に四百万の豫備兵を造つた。ドイツは十五年間徵兵令の施行を禁じられて一年十万人の志願兵で戰後の國防を維持して來たのである、訓練を受けた豫備兵は二百五十万しか持つて居ない、豫備將校に付て見ても相當まだ不足を告げて居る、そこにフランスの參謀本部は眼を着けたものと思ひますさう云ふことがムラン將軍をして、戰をやつても我に勝利の見込があると言はしめた理由でありましよう。併しそれでも英佛は戰爭の決心が付かなかつた。

第二の理由は何かと云ふと、當時イギリスもフランスも國內情勢がチェッコスロバキヤの問題で戰

爭するだけに輿論が纏らなかつた、元來イギリス內閣の長老政治家の考へは、ドイツとの妥協論である、長老と云ふと總理大臣のチェンバレン、外務大臣のハリファックス、大藏大臣のサイモン、內務大臣のホーア、斯う云ふ人々が集まつて、日本で言ふと五相會議のやうなことをやつて國策を決定して居る、何れもドイツとの妥協論者であります、彼等は共產黨は大嫌ひだ。ヒットラーと妥協することが英國に取つて安全であると云ふので、常にドイツとの妥協論を主張して來た連中であります。

其頃チェンバレンはヨーロッパの情勢をどう云ふ風に見て居つたかと云ふと、ドイツがヨーロッパの中央に於て優越な力を持つことは最早既定の事實であつて、英佛の力を以てして之を抑へることは不可能である、ドイツは必ず東に出る、當分西に出ないと言つて居る、ドイツが東に出ればソビエートと打つかる、ドイツとソビエートの戰爭が始まつたら日本は東からソビエートの尻を引つぱたく作戰を取るであらう、けれどもそれにしてもソビエート對手の戰爭はなか〳〵短かい時間には片付かない、長い戰爭になる、さうすればドイツは勝つても必ず國力が疲弊する、益々ドイツは西に出る力がなくなる、だから差當り英佛はライン河の國境をガツチリ護つて居れば、其間に軍備充實を行ふだけの時間が出て來る成べくドイツ、イタリーを宥めて出來るだけ安い酒手をやつて、動かないやうに妥協して行かうと云ふ考であります、之を英國ではアピーズメントポリシイ、慰撫政策と名づけて居るのであります、其が昨年九月のミュンヘン會議前後までイギリスの採つた外交政策であります。

ところが此政策が必ずしもイギリス國內の多數の贊成を得る譯に行かない、勞働黨は唯一の反對黨で

ありますが之が昔から聯盟支持派であつて、ドイツ、イタリーの所謂獨裁政治家とイギリスが妥協して行く政策に眞つ向ふから反對して居る、保守黨卽ち政府黨の中でもチェンバレンの政策に反對の政治家が相當あります、保守黨の元老チャーチルは有名な政治家でありますが、此人は數年來イギリスの議會に於て政府に警告を與へて居る、それはドイツが今に非常な武力を持つて出て來る、其時になつてイギリスが何と言つて見たところで既に遲い、だから今の間に早く軍備を充實してドイツに備へなければならんと繰返し演說して居たが、政府は必ずしも其意見に從はなかつた。

保守黨の少壯政治家の內にも、反對の一群があります、イギリスの內閣には三十台、四十台の若い人が相當の數入つて居ります、其隱然たる隊長は皆さん御承知のイーデンと云ふ政治家である。昨年二月外務大臣を辭めた、それからミュンヘン會議當時チェンバレンの妥協政策に憂慮をつかして海軍大臣を辭めたダフ●クーパー、と云ふ青年政治家がある、それから農林大臣のモリソン、商工大臣のスタンレー、自治領大臣のマクドナルド、何れも四十歲前後の青年政治家でありますがチェンバレンの外交政策に反對した。彼等の云ふことはドイツ、イタリーの目指す所には際限がない、何處まで行つたら止まると云ふ目途がない、彼等を對手にイギリスが妥協して、朝に一城を讓り夕に一廓を渡すと云ふ政策で行つたならば、其度每に屈辱を重ねて、イギリスはヨーロッパ諸國から見放される、もういゝ加減に決心して立上れと云つて、ドイツイタリーに對する强硬政策を主張して、其意見が容れられず昨年二月イーデンが外務大臣を辭めた譯であります。

だから昨年九月のズデーデン事件當時英國に於てはドイツに對する政策が容易に纏まらない、ドイツ、イタリーの如き國柄では、戰爭するのも、平和をするのも、一人の統領が一分間で決められる、併しイギリスでも、フランスでも、アメリカでも、所謂立憲政治と稱する政治を行つて居る國では國を擧げての戰爭を行ふと云ふ時には、國内の輿論、動向を考へない譯に行かない、新聞の輿論も、勞働組合の意見も考慮しなければならぬ國民の總てが決心して立上ると云ふ時でなければ戰爭が出來ないのは當然であります、處が當時イギリスはチエッコスロバキヤ問題の爲に戰爭する決心が付かなかつた。

フランスも大體同樣で、フランスは四年前に總選擧が行はれたが、其時左翼の大同團結、所謂人民戰線と云ふのが大多數であつた、其結果内閣を造つたのがレオンブルムと云ふ社會黨の首領でありました。レオンブルムが一番最初に行なつたのが、一週間四十時間勞働制、八時間づゝ五日間働いて四十時間になるそれから土曜日は休んで日給を貰ふ、日曜日は休日だが日給は貰はないと云ふ制度であります、さうなると工場の能率は下り生産費は高くなるから工場主は絶對反對である、そこで盛にストライキが起る、フランスのストライキは、職工が工場の中で胡座をかいて動かない、これはフランスの勞働者が考へ出した新しいストライキの方法でありますが、さう云ふことが國内到る處に始まつた。

又フランス銀行が社會黨内閣の大藏大臣の言ふことをなか〳〵肯かない。フランス銀行の大株主はフランスの財閥二百人であるが、フランス銀行が首を縦に振らない限り、公債を募集するにしても政

府が金を借るにしても、なか〳〵思ふやうに行かない、そこで社會黨内閣は思ひ切つてフランス銀行の機構改革に手を着けた、それが爲に政府と資本家の關係が非常に惡くなつた、社會不安が募り、物價が騰貴する、物價が騰貴すると輸入が增して輸出が止まることは當然であります、社會不安が强くなれば資本が逃げて、フランス銀行の準備金がドン〳〵減じて來ることも當然であります。そんなことで國民は内政に頭を奪はれて、外交問題など考へる暇がない、當時スペインに革命が起つて居りましたが、その革命戰に於て左翼政府はマドリッド方に同情して之を支持しようとし、反對黨はフランコ將軍に同情して之を援ける、國内がスペイン問題に付て二つに分れたのであります。

ドイツ、イタリーに對する政策も同樣で、左翼政府はソビエートと一緒になつてドイツを抑へやうと云ふ强硬政策を採り、反對派はフランスがソビエートと同盟すると云ふやうな危險なことは絶對反對だ、ヒットラー、ムッソリーニは共産黨に反對を標榜して居る政治家であるから是と妥協するのがフランスの爲に安全な道であると主張する、詰り右翼は妥協政策である、處が左翼は獨裁政治家と妥協するなどと云ふことは先祖代々急進黨、社會黨である自分の家の位牌に申譯が立ちません、絶對妥協には反對だと云ふ思想的立場から强硬論を主張する、さう云ふ風に國内が外交問題に付て二つに分れて居る眞つ最中にズデーデン事件が起つたのであるから、到底戰爭の決心が付かなかつたことも當然であると思ふ。

それにも拘らずミュンヘン會議に於て英佛の政府が丸負けになつたと云ふことは、兩國の國民に非

常な屈辱の念を與へた、又ミュンヘンの妥協が出來上りながらヨーロッパの平和を維持する見込が付かないと云ふことは兩國共に十分知つて居つたと思ひます、其證據にはミュンヘン會議が終ると英佛共に獨伊に對する妥協政策を主張しつゝも、内面に於て非常な勢を以て軍備擴張にスピードをかけたのを以て判斷することが出來る。

今年三月になつてドイツがチェッコスロバキヤ全體を併合した、それがどう云ふ影響を與へたか、又何故ドイツが急いでチェッコスロバキヤ全體を併合したかと云ふ問題を考へて見たいと思ふ、ドイツは恐らくズデーデンを取つたならばあそこで一應止まるであらうと云ふ見透しが多くの人々の間に行はれた、何故かと云ふと、ドイツナチの綱領には『國土と民族』と云ふことを强調して居る、ドイツ民族は神に選ばれた優秀な民族である、此優秀な民族が優秀な文化を以て劣等な民族と劣等な文化を指導することは、神の思召に叶ふことである、故にドイツ民族は他の劣等な民族と血を混へてはいけない、ユダヤ人と結婚したり、有色人種と結婚することは絶對相成らんと云ふ方針で來て居るのである、ところが、ズデーデンを越えてチェッコスロバキヤ全體を併合するとなると、約一千万のスラブ人がドイツ國内に入ることになる、それはナチの綱領に矛盾することであるから、恐らくドイツはズデーデンを取つたならばそれで止まるであらうと判斷した人が相當あつた、それにも拘らず今年三月にドイツが疾風迅雷の勢を以てチェッコ、スロヴアキア全部を併合したのはどう云ふ理由であるか。

一言で言ふと第一の理由は、ドイツがズデーデンを併合した結果、政治的には有利な地位になつた

が、經濟的に言ふと赤字である。オーストリヤは食料の三割、原料品の五割を外國に仰がなければならん、ズデーデンは有名な產業地であるが原料及食料の關係に於てはオーストリヤと同じ立場にあるので、此土地をドイツが背負つて行くのには莫大な原料と食料を外國から仰がなければならん、ところがそれは現在のドイツから言へば、經濟的に相當の負擔になるのである、御承知の通りドイツは日本と同じやうに經濟的に難關に當面して居る、それは、生產擴充を行はうとすれば外國から原料を澤山買はなければならん、外國から原料を買ふのには國内の物資を外國に賣ることが必要である、然るに輸出貿易はドイツも日本も此數年來年々衰へて居ります、輸出が減ると、外國から物を買ふのに國内の金を持出すより仕方がない、日本は相當持出しましたがまだ五億位は日本銀行の倉の中にあります、ドイツは國内に產金がない國で、而も準備金は日本より遙かに少い、そこで今年の一月三十日にヒツトラーが言つて居ります、『ドイツは輸出するか死ぬかどつちかである』と云ふ相當激しい言葉を使つて居ります。

日本でも數年來ブロック經濟だとか自給自足經濟だとか云ふ議論が行はれて、日本の經濟學者は數年來ブロック經濟の論文で飯を食つて居た、ところがやつて見たらどうなるか、生產擴充をやればやる程、國防資材を外國から買はなければならん、國内の金には限度がある、そこでどうしても輸出促進だ、貿易改善だと云ふので、去年暮から官民共に輸出促進、貿易改善、バターでも卵でも砂糖でも、ありとあらゆる物を外國に輸出しなければならぬことになつた。一昨年事變が始まつた時に商工大臣

は議會で「當分外國貿易を考へる暇がない」と言つた、其政府が昨年秋から鐘太鼓で、輸出促進だ、貿易改善だと騒ぎ出した、世の中の風向の變ることの速かなること斯の如きものであります。

ドイツも同じことでありまして、ドイツが昨年オーストリヤを併合した時に二億八百万マルクの金を得た、それで拂ひは出來た、そして今年に七千万マルクばかりの金を持越して居る、然し政治家は今年に入つてさて今年の暮の拂ひはどうするかと云ふことを考へたに違いない。ところでチェッコスロバキヤの中央銀行に持つて居つた金貨と外國貨幣がどの位あつたかと云ふと、イギリスの金にして正貨一千七百万パウンド、外國貨幣一千万パウンド、これを日本の貨幣に換算して、日本銀行の金庫に在る金と大體同額であつた。それを掴へたら今年の暮の拂ひは大丈夫だと云ふのが、チェッコスロバキヤを急いで併合した一つの理由であると思ひます。

最近チェッコスロバキヤ併合以來、スイッツル、ベルギー、オランダ等の諸國は（國は小さいけれども金は日本より澤山持つて居る）急いでその金をアメリカ及イギリスに送つて居る、特にベルギーは澤山送つて居ります、其言ひ譯を新聞に依つて見ると「ドイツの國境近くにあまり金を置いておくと誘惑が強くなる」と言つて居る。

第三には武器の問題がある。チェッコスロバキヤは昔のオーストリヤハンガリーの武器製造工場の集つて居る所でありまして、今でもスコーダ工場を始めとして合計二十七の工場があつて、それらの工場の武器製造能力はドイツの工場の五割に相當すると言はれて居ります、それからチェッコスロバ

キヤには三十五個師團の新式武器を持つた兵力があります、之を武裝解除すると一時に多數の武器が手に入る、今日世界の軍備擴張競爭の盛んな時に、是だけの工場や武器が手に入ることは頗る有利である。これも一つの理由であつたと思ひます。

最後にドイツは世界の情勢を見て、荒療治をするのは今だ、先になれば仕事がやり難くなると考へたと思ひます、それは主として英、佛、米の軍備擴張に刺戟されたのである。イギリスの軍備擴張は一昨年七月から五年計畫を實施したのでありますが、當時の計畫を見ると、一年間に約三億パウンド五十二三億圓の金を國防費に使ふことになつて居る、主たる項目は空軍の擴張で、第一線飛行機五千台を目標に計畫を樹てた、海軍は主力艦十五隻を二十五隻にする、巡洋艦五十隻を七十隻にする、無論是は日本の力に脅威されて計畫を樹てたことは間違ひないと思ひますが、海軍專門家のバイウオーターが書いて居るのを見ると、此海軍擴張が一段落を告げたならば、主力艦の五隻を極東に移してシンガポールに備へる、主力艦五隻を以て日本海の近海に攻め上つて決戰を行ふことは出來ないが、併し日本が陸兵を乘せて南洋方面に上陸作戰をする時には、これだけの軍艦で十分防ぐことが出來ると言つて居る、大體其程度の力を極東に送るのでありませう。更にバイウォーターが言ふのに、イギリスが日獨伊三國を對手に戰爭に入ると云ふことは世界戰爭の時である、其時にはフランスの海軍を以てイタリーを抑へることが出來る、アメリカの海軍を以て日本の海軍を抑へることが出來ると言つて居ります、左樣にアメリカの海軍を以て日本に向ふことが出來るかどうかは將來に殘された大きな

疑問であると思ひますが、さう云ふのがイギリスの海軍政策の全貌であります。ところが、ミュンヘン會議に依つて刺戟された結果、イギリスの國防計畫は非常に修正を加へられて、一年に五十二三億の豫算が、今年の議會を通過した數字を見ると一躍七億三千万パウンド、日本の金にして約百二十四億圓であります、現在建艦の最中でありますが、造船所の船台の上に載つて居る建造中の軍艦は六十五万噸、一週間に一隻づつ軍艦が進水する計畫になつて居りまして、今年春以來三萬五千噸の主力艦キングジョージ五世とプリンス・オブ・ウエールスの二隻が進水して居ります、さう云ふ風に全力を擧げて軍備擴張をやつて居る眞最中であります。

最近イギリスは徴兵令を布きました、吾々から見れば徴兵令を布くと云ふことは珍しいことではありませんが、イギリスと云ふ國は數百年徴兵令に反對した國でありまして、今度の徴兵でも其名前は軍事教練法と言つて居ります、それ程徴兵に反對の強いイギリスに於て、別に大反對もなく今年の議會に於て徴兵令が通過して、七月中旬から練兵を始めたと云ふのは、イギリス國内の輿論が如何に變つて來たかと云ふ有力な證據であります、さう云ふ形勢は無論ヒットラーが知らない筈がない、だからやるなら今のうちだと云ふことに考へた。

チェッコ併合の結果どう云ふ風に英佛に響いたかと云ふと、英國の内閣もフランスの内閣も國内の輿論に對してどうしても立つて行く途がない、チェンバレンの妥協政策は全然失敗した證據を眼の前に突付けられたのでありますから、内閣は辭職するか然らずんば其政策を百八十度轉換するより仕方

がない、そこはイギリスのやうな融通性の強い國民でありますから、内閣は辭職しない、其代り今迄の妥協政策から轉換してアビーズメント・ポリシイからオポレズメント・ポリシー卽ち戰爭準備の政策に塗り變へた。そこで、ドイツが東に出るならば波蘭とルーマニヤの國境に依つて防ぐと云ふ政策に變らざるを得なかつたのであります。

フランス國内にはもう一つ厄介なことがある、昨年秋頃からイタリーがフランスに對して要求を出すと云ふ噂が世界中に擴がつた、秋の議會でイタリーの外務大臣チアノが演說した時に議員達が騷いだ、『コルシカを取返せ』、『ニースを取返せ』『チュニスを取返せ』と云つて叫んだ、そこでフランス人は、あれ程言論統制のやかましいイタリーで議員が勝手なことを言つたのは、政府が智惠を付けたんだ、あれはサクラだと考へた、ところがフランス人の頭からいふと、ドイツ人とイタリー人を同じやうな民族とは考へない。ドイツ人は敵ながらも戰にも強いし頭もいゝ、しつかりした民族だと思つて居る、ところがイタリー人となると、一枚下の民族だと考へて居る、そこでフランス人は、ドイツから彼是れ言はれることはまだしも、イタリー人から彼是れ言はれる程吾々は墮落したのか、斯う云ふことが非常にフランス人に刺戟を與へたやうであります、從つて昨年十一月から本年にかけてフランス國内の情勢が非常に變化して居ります。

これを詳細に述べる時間はありませぬから、數字を一二申上げる程度に止めますが、五月末にフランスの總理大臣が全國へ放送演說をした時に言つたことは、昨年十一月からフランス國内のストライ

キは休止して、『今ストライキをやつて居る勞働者は十三名しかない』と述べた。昨年十月にフランス銀行の準備金は五百五十億フランであつたが今年二月には八百三十億フランになつたとフランス銀行が發表して居る、それはどう云ふ理由であつたかと云ふと『フランスはすつかり壁に押付けられてしまつた、此上は降參するか戰ふか二つに一つである、最早妥協の橋はすつかり燒かれてしまつた』といふ感じである、右翼の言つて居つた妥協論が主張の餘地がなくなつた、そこで左翼と右翼の外交意見が漸く一致した譯である、そこで今フランスが精神總動員の標語として掲げて居るのは「沈默と冷靜」と云ふ言葉であります、フランス人は何も言ふな、默つて冷靜に準備するより外はない、斯う云ふ方向にフランスの情勢が變つて來たと思ふ。

チェツコ併合の直後にポーランドとドイツの問題が起つた、ポーランドはもと〳〵ドイツとロシヤの土地を何がしか取つて出來た國である、殊に西方にバルチツク海に通ずる突出した土地があつて、ドイツを二つに割つて居る。その端にダンチツヒと云ふ港があります、此ダンチツヒ廻廊には五六十万のドイツ人が殘つて居る、ドイツから言へば、ヴエルサイユ條約が不都合なポーランドを造つたのであるから、少くとも戰前のドイツ國境を回復する程度に一日も早く修正しなければならぬと考へるのは當然の考であります。

從來ドイツはポーランド問題の解決を、一切手控へて居つたから、ポーランドとドイツの關係はよかつた、寧ろポーランドとソビエートの關係が惡かつた、然る所ドイツがチェツコスロバキヤを併合

すると次はポーランド問題の解決に乘出して、ダンチツヒを返せと言ひ出した、當時フリツク内務大臣が演說して、ポーランド國内には五十万のドイツ人がポーランド人の虐待を受けて居る、同胞としてそれを坐視するに忍びないと言つた、ところがチェツコ事件の時にもドイツは兵力を動かす前に、ドイツ人が虐待を受けて居つて坐視するに忍びぬと云つて、兵を動かした、そこでポーランドは愈々ドイツが迫つて來ると云ふので豫備兵を動員して國境の防備をやつた、そこでヒツトラーはポーランドは妥協に應じない、不都合だと云ふので、ポーランドとの間に結んで居つた一九三四年の中立條約を破棄してしまつた。かくしてポーランドとドイツとの關係は一日にして百八十度の轉換をした譯であります。

そこで英佛はポーランドに對して、四月三十日附を以て若しドイツが出て來たならば兩國共にポーランドの國境の安全を保障すると言つた、ポーランド人は頗る自尊心の高い國民でありますから、英佛が波蘭を保障するといふならポーランドも英佛を保障してやらうと答へた。それでは五分〳〵で往かうと云ふので、ポーランドと英佛間の軍事協定が出來たのであります。

其次にビク〳〵して居るのがルーマニヤである、此處には石油もあり、木材もあり、穀物もあり、鑛山もある、物を持つて居るだけに心配である。そこで英佛はルーマニヤに對してポーランドと同樣保障の申入れをしたが、ルーマニヤは、武力に於てポーランドの比ではない。遙かに準備が劣つて居るのであるからそんなことをすれば益々ドイツに睨まれて立場が苦しくなる、英佛が保障すると云つ

たところで此處まで援兵を持つて來られるものでもない、出來るならば世界戰爭が始まつても自分の國は中立で居りたいと云ふので一生懸命になつて居る、獨波の間に事が起るとなると其後ろに在るソビエートは重大な要素であると云ふので、英佛はソビエートに對して反侵略同盟を結ばうと申入れたがなか〳〵ソビエートはウンと言はない、今以て問題は決着しない。どう云ふ考で、ソ聯がかゝる態度を執るか、其間の實情を知ることは困難でありますが、案外モスクワ政府は落ちついて居る。

併し其一番大きな理由は斯う云ふことであると思ふ、それはポーランドとドイツが仲よくして居る間はソビエートの西國境は一日も安心が出來ない。何時ドイツの飛行機がやつて來るか分らないので西の國境には嚴重な要塞を造つて大兵を置いてある。然るに最近ポーランドとドイツが喧嘩を始めた。一體ドイツがソビエートに攻入つて來るのには、ポーランドを通るか、ルーマニヤを通るか、或はバルチツク海を通るより外に道がない、南はカルパチヤ山脈の峻嶮の爲に大軍を送ることが出來ない、北方の道は沼澤地である、又レニングラードには近いがモスクワには遠い、どうしてもポーランドを通る外に大軍を送る道がない、世界大戰の時には獨露は常にポーランド正面で戰爭して居ります。ドイツがポーランドと戰爭に入つたら自働的に英佛が立上る、さうなればソヴェートは第二線に引込むことになる、『戰爭をやるならやつて御覽なさい、あなた方が相當お疲れになつたら其時には私の方も決心しませう』と云ふ餘裕が出來たのであります、そこで落ちついて、出來るだけ有利な條件で條約を結ばふと云ふのがソビエートの肚であると思ひます。

又感情的に見ても、去年ズデーデン問題の時には英佛ソ聯が轡を揃へてドイツに向つた、ところがミュンヘン會議には英佛はソ聯を刎退けて一言の挨拶もしないで獨伊と妥協した。都合の好い時には引つ張り込んで、都合の惡い時には刎退ける、馬鹿にするにも程があると考へて居るに違ひない。昨年の九月にあれ程決心して掛つた英佛がミュンヘンで妥協した、これから先でもうつかり口車に乘つて居つたら何時オイテキボリを喰はされるか分らない、うつかり對手になれない、さう云ふことで今日までソビエートは容易に英佛の申入れに應じないのだと思ひます。

無論ドイツはソ聯邦を向ふに廻さない爲に種々の工作を行つて居ると思ひます、誰がドイツの責任を持つ政治家であつても、ミス〳〵ソ聯が英佛の陣營に飛込むことを手を拱いて觀て居る筈がない全力を盡してソ聯を引留めることに工作すると思ふ、今の所其何れが勝つかは問題でありますがソ聯から言ふと、兩方を手玉に取つて都合の好い方に行く餘地を餘して置かうと云ふのでしよう。

確信はありませんが、私の今の第六感は、彼是れと云ふものゝ結局ソ聯は英佛と條約を結ぶことになるのではないかと思ふ。まだイタリーのアルバニヤ占領問題、トルコと英佛等の關係がありますが時間の關係で全部省くより致し方がありません、但しアメリカの問題を一言申上げて置かないと、ヨーロッパの動向に判斷の付かないことがある。

アメリカが將來のヨーロッパ紛爭に如何なる立場を執るかと云ふことが今後の國際關係に重大な影響を與へることは申すまでもありません、アメリカの輿論は過去二年間に非常な變化を遂げたと云ふ

ことは、何人も異論のない所であります、どう云ふ風に變化したかと、云ふと二年前のアメリカは中立論、孤立論と云ふものが大勢を支配して居つた、一言で言ふと、アメリカはヨーロッパやアジヤの直接アメリカに利害關係の無い問題の爲に戰爭に入ることは御免を蒙むるアメリカはアメリカ大陸に頑張つて居ればいゝ、これが中立論であります、それが段々變つて來て、此頃では如何にアメリカが中立を守らうとしても守り得ないのではないかと云ふ氣持に變つたやうであります。

之を數字で申すと、アメリカには輿論調査機關が澤山ありますが、信用のあるものは大體二つあります、科學的の方法で毎月輿論調査をやつて居りますが、一昨年九月に此輿論調査で調べたものを見ますと「世界大戰が起ると思ふが、若し起つたらアメリカは捲込まれるであらうか」と云ふ問題を出して調べたところが「世界大戰が起ると思ふ」と云ふ投票が四六%「其際にはアメリカが捲込まれる」と云ふ投票が二二%であつた、ところが昨年十二月の調に依ると「世界大戰が起ると思ふ」と云ふ投票が六六%、「アメリカが捲込まれると思ふ」と云ふ投票が七六%になつた、此數字を以て見れば、アメリカの輿論が一年間に如何に變つたかと云ふことが大體分るのであります。

斯ような變化を來した原因は色々ありますが、一番大きな原因は二つあると思ふ、一つは感情の問題で、アメリカが最負角力と思つて居るところの、東洋で言へば支那、ヨーロッパで言へばチェッコスロバキヤ、フランス、イギリス等の國々が散々に叩き付けられて居る、弱い者に同情すると云ふ氣持の人一倍強いアメリカ人から言ふと、強い日本が憎い、獨伊に反感をもつ。之がアメリカの民衆の頭

を支配して居る感情であります。

もう一つ大きな理由は、思想的の立場であります。アメリカ人は其建國の精神、或はアメリカ國體に對する自尊心の頗る強い民族である、日本人が國體觀念の強いと同じやうに、アメリカの國體に自尊心を持つて居ります、其アメリカの建國の精神とは何であるか、今年一月にローズヴェルト大統領が議會に送つた教書の中に簡單に說明してあります、それに依れば、アメリカ人が最も大事に考へて居るものは三つある、一つは宗教の自由、第二は言論の自由、第三は輿論に依る政治組織と云ふことである。

この信條がアメリカ人の日常生活に現はれ、アメリカ人の人生に對する哲學になり政治の運用となつて現れるのであります。

ところが熟々世界を見渡すと、今までアメリカ人が一番大事だと思つて居るものがドン〳〵叩き潰されて居る、宗教の差に依つてカトリック教徒は窘められて居る、ユダヤ人は迫害されて居る、言論の自由、輿論に依る政治が叩き潰されて、フアツショ政治が世界を風靡して居る、今や世界の風潮はアメリカに對して日に非なり、此風潮に對して立上ることがアメリカの所謂精神的抗戰である、斯う云ふ見解から、獨裁主義と稱するもの或は全體主義國家に對する反感が強くなつて、今年の二月の輿論調査では「アメリカ國民が一番友好的な國民と思ふもの、一番非友好的な國民と思ふもの」と云ふ問題に對して「一番非友好的な國民」と云ふので最高點を占めたものがドイツで、之が五六%、第二

位が日本の一九%、次がイタリー、四番目がフランコのスペインと云ふ順序になつて居る、所謂全體主義國家を嫌ふ投票が絶對多數であります、それは所謂アメリカ人のイデオロギーから來て居る、アメリカ人の考へる近代文明の形式は宗教の自由、言論の自由、輿論に依る政治組織と云ふものが最も發達した形であると言つて居る、それがすつかり倒されて、アメリカ精神は世界に於て散々やつつけられて居る、これはアメリカに對する挑戰だ、斯う考へるのであります。

然らば此イデオロギーが單なるイデオロギーに止まるかと云ふと、本年春前國務長官のスチムソンが議會に出て參考人として意見を述べた、その時にスチムソンが言つた言葉は『吾々の考へて居ることは單なる理論ではない、これにはアメリカの物質的利害が重大な影響を受ける、例へば、ヨーロッパに於て英佛が根こそぎやられたらどうなる、カナダも濠洲もニュージランドも皆取られる、東洋に於てはフイリツピン、ハワイを失ひ、延いてアラスカ、中南米も此儘では殘るまい、さうなればアメリカは非常に不愉快なお隣を持たなければならぬことになる、それまで吾々は手を拱いて視て居ることが出來るか、今の間に陸海空軍を充實して其侵略に備へなければならぬ』と述べて居るのであります、此思想は今年春ローズベルトが議會に教書を送つて、陸海空軍の充實豫算を請求したと同じ傾向であることは明かであります。

それならば今のワシントン政府なリローズヴエルト大統領が戰爭を求めて居るかと云ふと、私はさうは思はないアメリカ程平和主義運動の盛んな國はないので、婦人團體でも、宗教團體でも、或は學

生教授の團體でも、アメリカは世界で最も熱心な平和主義運動者の國である、戰爭はしたくない、しかし、今のアメリカの輿論から判斷すると、ヨーロッパに戰爭が起ればどうしてもアメリカは捲込まれる、だから何とかしてヨーロッパの戰爭を防がなければならぬ。戰爭を防ぐのには、今からアメリカが態度をハツキリ決めて、戰爭が起つたらアメリカは英佛を助けるぞと云ふので軍備擴張をして置けば世界戰爭が防げる。そういふ考が現在のアメリカに於て非常な勢で軍備擴張が行はれて居る理由であると私は觀るのであります。

最後に極東の問題について一言します。極東は歐洲の事變に依つて大影響を受けることは皆さん御承知の通りであります、一つの假定を取つて申上げますが、日本がドイツと軍事同盟を結んでソビエートに對抗する、無條件で軍事同盟を結んだ場合を想像する。然るにダンチツヒ問題が激化してドイツとポーランドが戰爭を始める、英佛が自働的に立上る、ポーランドが何とかドイツに對抗出來れば形勢は變りませうが、ポーランドが負けて、段々下つたとすると、ソビエートは否でも應でもポーランドに援軍を送らなければならぬ立場になる。ドイツがルーマニヤに入ればソビエートはルーマニヤの北方に兵力を出して或る程度まで對抗せざるを得ないことになる、さうなると日本はソヴエートの東を叩きに出る、その時には對手はソヴエートばかりではない、イギリスもフランスもやがてはアメリカも出て來る、さう云ふ豫想をやらないと堅い算盤は出て來ません。するとポーランドの問題であるから日本に關係がないと云つて居れなくなる。

現内閣は總理大臣、陸海軍大臣始め、ヨーロッパの問題に捲込まれて日本が戰爭に參加することは支那事變處理の上に不利益である、何とかしてヨーロッパ問題に捲込まれることなく、日本は極東の事變を解決しなければならぬと云ふ頭で居られることは、確信を持つて皆さんに申上げることが出來る。然しダンチツヒ問題のことを考へて見ても實際問題として條約技術の上でどう解決するかと云ふことは厄介な問題である。そこで數ケ月來五相會議を開いてイロ〳〵討議しても問題が進捗しない原因がどの邊にあるかは御推察が出來ると思ひます。

支那問題に關して、英米佛等の勢力と、日本進出の勢力とが到る處で衝突することは、免れないことである。歐米諸國は二百年以來支那に來て莫大の投資を行ひ、權益を張つてゐるからこれを維持する爲めに數十年來支那の門戸開放、機會均等の原則を主張して居ります。極東に優越した努力が現れて支那を政治的に支配することを惧れるのである。これに對して日本がぐん〳〵伸びて行く以上其間には必然的に摩擦が激しくなるそれが極東に於ける我國と歐米との爭である。この爭に對して如何なる對策をとるかゞ我國の直面する大問題でありますが、一氣に力で押通すべしとの考と、徐々に實力を以て相手の一國〳〵と問題を解決しようとの考とがあり得る譯であります。異るところは手段と時期の論である。

天津問題について東京で會談を行つてゐるのも、要するに激しい相剋を如何にして緩和するかの問題でありますが、無論英佛は極東に於て事を構へたくないと考へて居る、ドイツ、イタリーから言ふ

と出來るだけ早く極東で英佛と日本が爭つて呉れることが歐洲に於て自己に有利と考へることも當然であります。

此際日本としては獨自の道で天津問題の解決方法を見付けなければならぬ。然しその解決に當つても政府は相當難境にある、何故難境にあるかと云ふと、今日まで日本は支那との爭は日本の自衛行爲である、決して戰爭に訴へて支那を侵略するものでないと中外に表明して來た、其ことは御詔勅に於ても、屢々吾々におボしになつて居るところである。又日本は第三國の權益を尊重すると云ふ約束を關係各國に與へて居る、そこで交戰權を主張せず第三國の權益を尊重しつゝ租界問題を解決すると云ふのですから簡單に行かない。そこに東京會談の迂餘曲折が豫想されるのでありまして、何れにしてもさう簡單に決着は付かない。相當我慢して待つて居ないと、一週間や十日で問題が解決するとは私は想像しません、もと〳〵支那事變は現地解決不擴大と云ふ方針で乘出した。ところが事變は段々擴大して行つて、今度は暴支膺懲と云ふことになつて支那全體に事件が擴がつた、其中に實際の敵は支那ではない、其背後にある歐米列强である、と云ふ主張も出て來た、さうして事變は益々擴大せんとして居る、從つて國民の責任も益々重大になつて來たことは皆さん御承知の通りであります。問題を大局の上から見ると云ふことが外交問題に於ては一番大事なことであります、既に武力に依る戰爭は一段落を告げた、武力に依る戰が一段落を告げたならば、是から先の戰は何であるか、經濟の戰、智惠の戰である、經濟の戰智惠の戰である以上大局の上から前途を見透して誤らない方向を辿つて國策を

遂行することが何よりも必要であります、今後ともさう云ふ意味に於て指導にお當り下さることを希望する次第であります。（拍手）

都市の男兒の體力向上策

京都帝國大學教授
醫學博士　戸田正三

國防上の廣い意味から見て、國民の體力向上策に就き、私に所見を述べよと云ふことでありましたが、こゝに「都市の男兒の體力向上に就て」と題して些か所見を述べます。かゝる題を出した所以は今我國の人口が都市に益々集中して參りますが、此の勢を以てすれば一〇年、二〇年、三〇年後に於て日本の國力は人の力から言つて如何樣に變つて來るであらうか、特に次の時代に必發するものと考へてよき都市育ちの男兒の體力の低下とそれに伴ふ精神力の薄弱性とが、都市生活者の增加と共に殖へた時我國力は將來どうなるであらうか、今我國に於ては何としても新東亞を建設しなければならぬ立場にあります、單に今戰ひに勝つと言ふことのみではなく、眞に國家百年の大計を建てねばならぬ時にあるのであります。

而して之に對する國民の力量から考へて觀て、茲に大なる疑問が起らざるを得ないのであります、卽ち今に於て國民の力の將來性に疑義を挿み其豫防を講ぜねばならぬのであります。以下項を分けて其疑義と對策とに就き所見の一端を述べます。

一、我國に於ける人口都市集中の趨勢に就て

我國に於ける人口都市集中の趨勢を統計的に述べますと、大正九年、大正十四年、昭和五年、昭和十年の國勢調査に依れば人口五千以下、人口五千以下と云へば先づ村落、又は小さい町を含む村落でありますが、此等の村落の人口は大正九年には四八%で總人口の約半分であつたものであります、それが大正十四年には四五%昭和五年には四〇%昭和十年には三五%となつて次第に激減して居ります。反對に十万以上の都市の人口は丁度農村の人口が減つた丈增加したことになつて居る。即ち人口五千以下の町村の人口が人口十万以上の都會へ集中した形であります。人口十万以上の都市の人口は大正九年には十二%であり、大正十四年十五%、昭和五年十八%、昭和十年二十五%と進んで來たのであります。此勢ひは今度の大事變後には更に增して來て都市へ都市へと人口の集中することを想像せねばならないのであります。序に五千以上一万以下、一万以上五万以下、五万以上十万以下の市や町の人口の動きには大差がないのであります。即ち人口五千以下の村落の人口が減つて十万以上の都市の人口が增加する傾向が強いのであります。

而して斯る人口動態の傾向を防ぎ得るかと言ふのに、學者の意見も政府の見解も共に之を憂慮しつゝ之を如何とも致し難いのであり、又之を防ぎ得るものでもないのであります。即ち今後農村の人口は益々都市へ集中するものと觀なければならないのであります。

年度 / 人口階級	大正九年(1/X)	大正十四年(1/X)	昭和五年(1/X)	昭和十年(1/X)
一萬以下	五千以下 48% 五千以上一萬以下 19% } 67%	45% } 64% 19%	40% } 59% 19%	35% } 54% 19%
五萬以下	一萬以上五萬以下 16%	16%	16%	15%
五萬以上	五萬以上十萬以上 4% } 16% 十萬以上 12%	6% } 21% 15%	7% } 25% 18%	5% } 30% 25%
	六大都市 11%	11%	17%	18%

二、都會育ちと神身の薄弱性に就て

（一） 兵庫縣學童調（兵庫縣技師渡邊道義氏調）

今都市と農村の健康狀況を兵庫縣學童調査に就いて見るのに、兵庫縣は裏日本の但馬より表日本の

淡路島に到る地域で、淡路島及び表日本方面の氣候の良好な地方と、但馬、丹波地方の所謂氣候の惡い裏日本地方とを含むものでありますが、之を都鄙別、氣候別に大別して觀察しますと氣候別には案外に差が現はれないで、結局は都市に育つて居るか否かに依つて大なる相違が現はれて來るのであります。即ち氣候の良い神戸市のみが特に目立つて惡く、次いで尼崎市、西宮市、姫路市が惡いのであります。其一例として市部と郡部とを比較すると市部の男兒の死亡は郡部の一六倍、女兒は一、二倍であります、市部は郡部に比して醫師の治療もよくゆき渡つて居り、郡部には無醫村も少く無いと言つた狀態であるが、大局より觀るときは都市の兒童の死亡は市部に於て遙かに高いのであります。更に療養を要する疾病罹患率の目標として長期缺席兒童（一月から數ヶ月休養せる者）の關係を調査せるに市部に於ては郡部に比して此割合が遙かに高いことを觀る、そして長期缺席の原因の主なるものは呼吸器病であります。即ち都市内では子供の時から既に結核性疾患が侵潤して居るのであります。

次に中等學校に就て同樣に比較すると、不良なのは師範學校、特に女子師範學校であります。同じ中等學校の中でも農工商の順に農學校育ちが最も健康であります。

最も不良なのは夜間學校で之等は師範學校等と共に過勞が原因するのでは無いかと思はれます。要するに斯の如き調査は大都會を含む各地方に於て大體よく一致する傾向のものと思ひます。寧ろ東京や大阪市では更に大差が現はれるのでは無いかと思はれます。

（二）史的觀察

歴史上日本男兒にとつて、都會育ちとは如何なるものであるかを觀るに、昔の江戸、大阪、京でありますが、京都では大事な男の子は里子に出して八瀬、大原に預けたものです、育てねばならぬ男の子は町の中では育ち難いことを知つて居るから里子にした、女の子は男の子と違つて其體質上家の中許りでも育ち易い、此事は江戸、大阪でも同樣で由來市内では男子は育て難く大抵三代もすると絶えると言はれ、娘に養子をとつたものです。江戸や大阪の町人皆然りであります、但し之等の事に付て詳しい調べがありませんが、大局から見て市内の密集地帶では男兒は育ち難かつたのであります。

（三）現在我國の都市生活者の勢力と其育ち方

而らば皆さんの中には、吾々は都會に居るのに弱くないが、それはどうしたのかと言ふ疑問を持たれるが、それは市内に生れて、市内に育てられた人が少ないからだと思ひます。御列席の各位の如き、大抵は田舍生れの田舍育ちで早くは十四、五歳、晩きは二十歳の頃市内に移民した人々です。今日我國の大都市を形成して居る人口の八割九割、神戸市、横濱市の如きは其の全部が田舍者であつて、近頃漸く第二世が壯丁に達した位のものであります、而して既に此子供に薄弱性の者が多いのであります。即ち現在我國の都市に活躍せる人々は殆んど田舍育ちであると云つても宜しい位です。田舍から强い人々が都會へ出て來たのであります。素より其の人の素質にも依りますが、育ち

が田舍である爲めに何事も大自然に對して神身共に良く鍛練して來た爲めであります。此身體の出來上つた者が都會に出て頭を鍛練するのであるから現在我國の都市民の勢力は絶大なのであります。唯だ其子供特に男子の將來に疑ひが起るのであります。

今事變に於て京都師團がよく强行軍に耐え强いと云ふ話を聞かされましたが、京都の兵は大和、江洲、丹後、丹波の山家育ちが多く、京都市育ちは少いからではありますまいか。集團行動に際して十人の中六人が强ければ大勢が强く、弱い四人はそれに引づられて行く、之に反して六人が弱はければ全體が弱くなる譯であります。今吾國に於て殊に國防に從事して居る將兵の六割以上七割、八割も田舍育ちであるから强いのであります。之が二〇年後人口の大半が都市に集中して都市育ちの將卒が過半を占め、又それが今までの樣な都會の子供の育て方であつた場合には如何でありませうか。その六割が神身薄弱性となつた時は如何でせうか、如何に富を增し領土を擴張して置ても弱肉强食で軈て喰れてしまう恐れがある。我國の如く働く人の力以外に何等の富がない、相互の活動力が今日の我國力を成すものでありまして之れが大君の下に一致團結して居るのが我國の特色であります。然らば此民力の六割が虛弱なることを案ぜずして百年の大計を壯語するも何になりませうか。

現在に於ける都市學童を京都市に就いて見るのに、昭和四、五年の人口七〇万——八〇万の時は、

人口の一割が小學兒童であつたのが、昭和六年に大京都市と成つて人口百万以上となるや、學童數は人口の一割一分と成り、今や一割二分となつて居ります。大京都市として見ると、人口の增加力も子供の增加力も大分良いのであります。大大阪市の學童數は全人口の一割四分にも達して居る。而して此兒童數の力は市內中心部及び舊市民にあるのでは無くして町村合併と、都市の周圍へ新しく移民して來た人が强い力を有する爲めとであります。今我國の都市は田舍で育つた人々の移民地である。故に之等の精氣潑剌たる人々によつて出來て居る今の都會は大きな力があり、子供も多く生れるのである。英佛の移民に於いても見られる如く、移民の初代には出產率は高いものである。東京市、大阪市になると移民が多いから學童數は人口の二割四分にもなつて居る。而して陸軍統計に依れば、現在の都市民すら既に憂慮に堪えないものがあるのであるが、さて今後は如何に成り行くであらうか。

三、都市生活の概況特にその缺陷に就いて

何故に都市に育つと虛弱になるか。之は何に依るのか、昔は東京、京都、大阪等の市內では男の子は育ち難くかつた。今日はそんな事はない、之があれば皆もつと早く氣付いたであろう。之は第一、學校教育のお蔭であると思ふ。今日都會で育つた男の子が猶相當の力を持つて育つことは學校教育のお蔭で學校に入れずして家庭のみで育てるとすれば矢張り三代位で亡んだであらう。要するに問題となる處は都市生活の缺陷は何處にあるかを知り、都市の子供の育て方を知るにあります。卽ち都市の人

口が增加すると共に市内の育兒、學校教育、徒弟教育の責任が益々大となるのであります。

（一） 都市生活と坐業の增加・「本邦の坐業者」

都市生活は一言にして言へば、坐業及び屋内作業の增加であります。而して今日本人全體としての健康程度及び體力の現狀を見るに、農林、牧畜、漁業等、田舍に住んで屋外勞働をするものは一番强い。一番弱い者は役所や事務所等に奉公する吏員階級者である。又商店の徒弟等である。同じく都會に住む者でも筋肉勞働を爲す者は、しからざる者より良く、亦家の內に居らねばならぬ者より戶外に出ねばならぬ者が强い。卽ち都會生活の缺陷は家の內に居つて戶外に出られない事が第一不自然となる原因である。二十歲位の靑年が一日二四時間の中二十二、三時間も狹苦しき家の中か外に出ても電車の中に押しつめられて居るやうな生活をするからである。文明人はどんな情ない、不自然な環境に置かれても之に慣れて行く、卽ち其環境に耐える樣に力弱く靑白くなつて行くのである。自ら壓迫せられた環境に順應して唯生きては行ける樣になるのである、決して强くは生きて行けない。而して斯くの如き者が或數以上に增せば國家として如何であろうか。恰も國家を構成する細胞の一部が肺癆化したと同樣である。

（二） 體力低下は生活方法の缺陷なり

現在の調べによると、結核に就いて見ても分る如くに、本邦の醫學はすでに世界の標準に達して居るが、結核にしろ其の他傳染病にしろ增加するのみである。此結核は產業の勃興と之に伴ふ人口の

都市集中と共に明治二十年頃より次第に增加して今日の狀態になつて來て居る。而して現在の都市民の如き生活をさせて置いて結核を撲滅せんとすることは木によつて魚を求むるの類である。敢て結核のみならず、消化器病、腦神經病等何れも日に月に增し都市生活の複雜化と共に增惡して來るのである。吾々の大學生時代には神經衰弱等は甚だ尠なかつたが、今日の學生の結核と神經衰弱の多い事は實に數かはしい。其他消化器病及び感覺機能障碍も又增加して來て居る。而して之等は旣に小、中學校時代までに其根幹を弱らして居るからであつて、根幹を弱らせて病氣を治さんとすることは無理である。要するに幼、少年期に於ける生活方法の缺陷を改めるの外は無いのである。

（三） 近視の例

更に一例を近視の問題に就いて見るに、我國の近視は今次の大戰で一般に憂慮せられるに到つた問題でありますが、昔から近視は俗に勉强するから起るのだと言つて學校近視とも言はれその原因は一は遺傳主力說あり、他は外因主力說とがある。此外因として今日まで宣傳せられて居るのは勉强するためだ等の所謂近業原因論であります。扨て我國の近視の數は近年に至つて著しく增加して來た、而して國防上之を防ぎ得るものならば防がねばならないのであります、

京都府下に於いて、近視度數と出現率を眼底檢査に依つて調べた私の教室の成績に依りますと一般に小學校兒童の近視の出現率と度數は年令と共に多くなつております。而して市內では男子は三年

一四%、六年三七%、女子は三年は一二%、六年三五%で、男女の差は少なく、之は列國の諸學者の說く所とも一致して居るのであります。更に田舍では男子は三年生七%で市內の半分、六年も同樣に半分であります、女子に於いても同樣であります。

中等學校では男子一年生は市內の六年生より少いが、之は田舍の子供が入學するからであります。二年生以上は增加して四七%——五五%となり、女子では三七%に止つて居ります。更に專門學校では六割、大學では六割、七割となる。近頃町內で老人よりも、若い人が眼鏡をかけて居る者が多いが之は誠に逆の現象である。丹後、丹波の山の中になると兒童の近視は五——六%位である。亦先般臺灣に出張して檢査した成績によると生蕃人三千人中に僅か數十人の割である。而して此生蕃も市內で育てると近視が著しく增加する卽ち環境又は育ち方が主なる原因で遺傳によるものは數少ないものと考へられるのであります。其他學校內や家庭內の採光の多寡とか活字が小さい事などは問題でないと思ひます。都會の中心の明るく設備の良い學校に居て、家庭の電燈も明るい所の子供程近視が多く山の中の電燈のない採光不完全なる處程近視が少いのであります。讀書時間とも關係がない。遺傳との相關關係は數理的に二五%と算出しましたが、之も尙ほ疑はしい。特に注目すべきことは近視は小學校の三年頃より頓に增加して旣に六年で成立して居ることであります、詰り男子でも女子でも旣に靑春期に入るまでに變形して居るのであつて成長期後には殆んど關係が無い樣に觀へる。其外、身長體格との關係、照明との關係も調べたが明らかでない。唯成長曲線と近視發

現度との間には關係がある。例へば女子では十才から十二才前後、男子では十二才——十四才前後の最も良く成長する時期に於いて人間を自然に反して固定化する事は近視の重要な原因と成るのではないかと思はれる。近視のみならず筋骨薄弱も亦此の固定化に依るのではないか。結核に對する素質も亦然りである。小學校時代の延びんとする時代に、不自然な型に嵌めて了ふためではあるまいか。人の自然を無視した近視的な考へ方や育て方が兒童を近眼にし、同樣にして兒童を薄弱にするのであると思ふ。卽ち現在の樣な都會生活そのものが近視の一大誘因となるものであると思ふ。例へば鳥は遠視であり、魚は近視であり濁水中に住む鮒はそれが最も甚だしいのであります。之は遠くを見る必要がないからである。近い所のみを見る生活をさせられて居るからして、近視の方が都合が良いから近視に成るのであります。現在の都市生活者は一米以內の仕事のみであつて之を爲すには一「チオプトリー」の近視が好都合である。卽ち今の都市の小學生の如くに眼前のみを見せられる生活を强制せらるれば、近視になる素質の者は便利上近視になるわけである。元來人の體は便利な樣に順應して行くもので、都會育ちの男兒が女の子の樣な體に成るのは、此の壓迫生活、瓦の沙漠の中に住むには其方が一應便利であるから、そう成るのであると思ひます。從つて吾々としては現在の如き都市生活に對して、もつと衞生科學的に之を解說し日常生活に對する指導方法を建てねばならないのであります。私は都市生活が惡いのでは無く其適應策を誤れるが爲めであると思ひます。

四、都市生活と「體力向上策」

（一） 作業上より見たる體力

（二） 國防上より見たる體力

體力とは神身の綜合的能力を意味し、同時に文明人としての生活適應力（智力）を包含するものであります。而して之を二通りに考へねばなりません。卽ち其一は狹義の國防であります。國防と云ふ意味になると、國家は常に戰爭をして居るのではないが、一旦緩急常に此餘裕を持つて居らなければなりません。其二は職業に適した體格であります、各人は各其職業によつてその健康が業務と良く釣り合つて居れば良いのであります。例へば今私が片足、片手又は片眼となりましても、講義や研究をするのには大して支障がないのであります。之は勿論極端な例でありますが、斯樣に職業が科學的に分化して、力業は科學の力でやつて了ひます。例へば百姓や仲仕が重い荷を持ち上げる事等を除けば、他は「スキッチ」を入れゝば機械がやります。物の輸送にも如何に早く走れたとしても自動車に及びません。卽ち力が不用となつて來ます。所が自然は如何、人間の體は如何、と言ふのに、立派な人間に育ち上るのには神身共に其自然に應じて之を鍛練しなければ駄目なのであります。鍛練なき所には發達はないのであります。子供を育てゝ行くには神身一にして其子の持つ自然を助長しつゝ之を鍛練しなければならぬのであります、成長期に於て特に此の神身の鍛練が必要なのであります、然るに頭のみ育てれば良いと言ふのが今の都會の兒童の育て方でありまして、之れ

では身體薄弱從つて精神も薄弱となるのは當然であります。

例へば今我國の國防上より觀て一朝事ある時、黃河、アムール河に五百万の大軍を動かさねばならぬ時、冬期軍の行動に從つて、外套其他の裝具に五貫、彈藥、兵糧等に五貫、計十貫餘りのものを身につけて一日五——六里の行軍に堪へんとするには今樣都會育ちの子供に之が出來るであらうか、現在彼の地でやつて居るのは田舍育ちの子供が多いからである、此の樣な點から、言ふと、不自然な子供の育て方は何れの點より見るも、特に國防上から見る時、眞に憂慮す可きものがあるのであります。今後我國の人口十万以上の都市、特に六大都市等に育つ男兒に對しては（女兒は其體質上靜的のもので文化の恩惠を受け易く都市育ちの惡影響も男子に較べて比較的受け難い）幼時より小學校時代のどん〳〵延びる間、又中學校の二——三年位迄は持つて生れた體力を大自然の恩惠を活用せしめて其體力を延さねばならないのであります。時間が無いから切りつめて發育中の者に對する私の考への一端を述べますと、

（一） 若い者（發育中の者）にとつて、特に都會生活の子供は、凡らゆる意味で蒸されない樣にする事が我國の環境から言つて絕對に必要である。着物を着るにしても、亦住むにしても、私は常に謂ふ

ねすくます、　厚着をするな、

中に身を曝せの意義である。

陽にあたれ、陽にあたれとは風に當れの意義で流動氣

例へば近頃女の子は却つて薄着となつて居るが、昭和の男兒は明治の子供より「シャツ」と「ヅ

ボン下」が一枚づゝ増して居る。如何なるものでも育て上げるのに、蒸したり風通しを悪くすれば。丈夫に育つものではない。然るに今の小學校生徒等を觀るとすつかり蒸されて居る。靜かにして居て汗ばむのは最も悪い、からつとして居て、着物を着ても、着物の下が天氣晴朗でなければならない。即ち出來る丈、薄着をして、一面毎日積極的に汗をかゝせる様にしなければならない、蒸されて家の中に蟄居すれば黴がつく、結核の多いのも此爲めである。要するに皮膚や神經系統を充分鍛練せなければ立派な人間とはならぬ。

(二) 次に特に細民兒童(之は將來日本勞働力を擔つて立つ者である)に對してであるが、彼等に與ふる三度の食を惜むなと言ふことであります。粗食主義を唱へる人もあるが、それは富裕な子弟や成長した人や老人等の一部の者に對す可きものであつて、延び行かんとする草木に、良き肥料を與へずして、良き收穫を得んとする事は間違ひである。亦大正七、八年頃、好景氣時代に於て都市の細民兒童の死亡が甚だ高かつた事を考へれば、此際軍需工業や其他市内の家内工業に從事せる者の兒童の營養は最も意を用ひねばならぬ處であります。詰り買喰ひを廢して三度の食事を規則正しく與へることの指導が最も必要な問題であります。要するに子供を丈夫に育てるには大氣の活用と營養とに最善の注意を拂はねばならぬ。

序に余が十年前人間常時の健康維持の爲に作つて見た健康の目標を參考の爲め茲に挿入する

戸田正三案

健康の目標

由來健康の目標には或は、體格偉大又は筋骨逞しき者などを掲げて居るけれども、**強壯な體格と日常の健康**とは大分意味の違つたものである。文明の今日、我々の體格は大體其年齢と其業務とに釣合つて居れば良いので、ヂャイアントである必要はない。また、體格は略ぼ其人に固有のものであるが、健康は一朝にして變るものである。故に、健康の目標を體格に置く辯は悪い。

また、**健康**と**病氣**との區別は中々複雜して居る。身體髪膚之れ悉く健康と云ふやうな人は有り得ない。要するに、健康とは日常「**心身に違和の感なきこと**」そしてそれを自他共に認め得る場合である。依つて、余は吾人の日常生活に照して、成るべく平易にする爲め左の四つを組合せて健康の目標とした。

一、めしうまい……(とは、毎常食膳に向つて、**食慾良好**で、**便通正**しきこと、即ち全消化器系統の健康を代表する。)

二、かぜひかぬ……(とは、風引き易くなきことの意味であつて、天氣及び氣候の四時の變化に對して抵抗力の强きこと、即ち皮膚及び呼吸器系統の健康を代表する。)

三、萱元氣よい……(とは、常に心身の活動力と、其持久性に富むこと、換言ざば、**仕事に疲れ易くなきこと**を意味する。)

四、夜よく眠る……(とは、毎夜安眠熟睡して疲勞の恢復力よく、以て明日の活力に餘裕あることを意味する。)

以上の四つを目標として、隣人互に較べて見れば己が心身の**健康の程度**がわかる、また各人は不斷此のやうに努力することによつて終生一層健康に過し得ると思ふ。

斯くの如くして男子は十七～十八才、女子ならば十六才に成る迄に夫々その生活環境及び職業に

應じて、子弟教課及び徒弟教課を作らなければならないと思つて居ります。都市の人口集中が益々盛んなるものとすれば都市に育つ子供に對して良く大自然に順應した生活方法を立案する事が必要なのであります。例へば京都市ならば今の市内の窮屈な小學校は尋常四年迄の男子と全女子の學校として、十二才以上の男子の校舍は「バラック」で四圍の山裏へ建て、山中で自然式に教育するのが一番良いと思ひます。要するに開拓力と活動力とが自から養成せられる樣に眞に人間を鍛練すればよい。「スポーツ」の如き一過性のものは其效少なく、連續的持續的に自然の間に於いて適者生存の力を培ふ事が必要である。而して之等の方法に就ては私共も尙ほ研究の途にあるので、要するに各都市は各其地勢、風土に應じて適案を作らねばならぬのであります。

尙終りに一言追加したきことは、兎角我都市に於ける兒童養護事業の如きは概して實質性に乏しい感がある、例へば乳兒院を建てても、それは有閑マダムの遊び場所の如き感がある。曩に述べた晝夜を徹して夫婦で稼いで居る眞の勞働者の子供、卽ち國家の將來の富源たる可き子供は、今此盛夏に於て市内至る處で知らぬ間に斃れつゝあるのであります。此事は我等が嘗つて大阪市の家内工業地域で調査した事實であります、而かも此可憐な兒童を救ふ事は醫師が戰場に望む氣持で仁と勇とを持つて家庭に踏込まなければならぬ。然らば一擧手一投足の勞を以て之を救ひ得るのであります。然るに今尙ほ我都市の爲政者も社會事業家も其の熱乏しく、富豪の寄附も一向此方面には出ない、醫師も亦有閑マダムを相手にして其日を過して居る程度である、國家將來の爲め輿論の奮起を切望する次第であります。

昭和十四年九月二十五日印刷
昭和十四年十月十日發行

發行者　京都府區内　財團法人　京都府國防協會　右代表者　常務理事　田村義雄

印刷者　京都市下立賣通小川東入　中西勝太郎

印刷所　京都市下立賣通小川東入　中西印刷合名會社

396
208

終

子ト40-43